

## 19 庄内川沿いの探訪 春日井市の文化を育んだ川

庄内川は、岐阜県恵那市の夕立山(標高 727m)を水源とし、屏風山断層に並行して瑞浪、土岐、多治見の盆地を流れ、その間の峡谷を刻みながら県境の玉野川溪谷を抜けて濃尾平野に出ます。

そして春日井市内でも幾つもの支流と合流し、名古屋市西区で矢田川と合流して伊勢湾に注ぎます。その延長 96Km、流域面積 1,010Km<sup>2</sup>の河川です。

この川沿いに、人々がいつしか住みはじめ、春日井の文化を育んだ川であることは間違いありません。

人々が、この川とともに生きてきた痕跡が今なお多く残っています。

松河戸の沿革にとって欠かすことができないこの川の、市内を流れる川沿い(19.3Km)を探訪することとします。



**庄内川の水源地(庄内川水系)**  
 延長 96Km  
 流域面積 1,010Km<sup>2</sup>

庄内川河川事務所

- (1) 古墳、古代遺跡……………p427
- (2) 庄内川の渡し……………p439
- (3) 庄内川に架かる橋……………p445
- (4) 治水と水利用……………p453
- (5) その他の名所……………p463
- (6) 庄内川の自然を探訪(カヌーで川下り)……………p473

松河戸文化科学探求隊  
 隊長 長谷川 浩  
 080-3657-7052  
 松河戸町の沿革ホームページ  
<http://matsukawado.com/>

岐阜県境から鹿乗橋付近まで(玉野川溪谷)

- ・春日井の東部山地にあたり、川は岩石の屹立する中を急流となっています。
- 特に玉野川溪谷の辺りは、風光明媚な場所で、昭和 50 年頃までは名古屋の奥座敷と言われ、観光で大変にぎわっていました。
- ・大きな岩や崖が川と調和して美しい風景を作っています。
- 現在は、愛岐トンネル群(廃線)で脚光を浴びています。

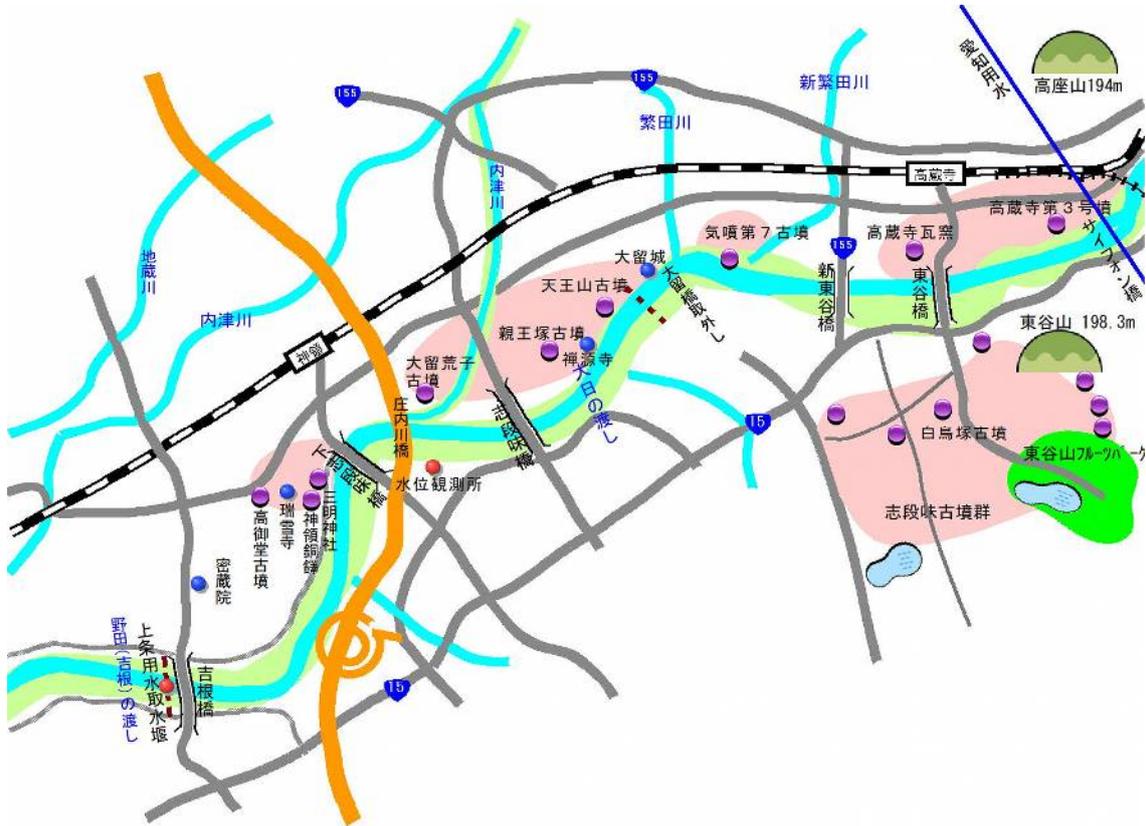


主なもの

- |                 |   |
|-----------------|---|
| (1) ● 古墳、古代遺跡   | ・ 高蔵寺古墳群(高蔵寺第5号墳)   |
| (2) ● 庄内川の渡し跡   | ・ 岩瀬の渡し、・ 入尾の渡し   |
| (3) ● 庄内川に架かる橋  | ・ 城嶺橋、・ 玉野橋、・ 鹿乗橋・ 庄内川橋梁                                  |
| (4) ● 治水と水利用    | ・ 玉野堰堤・ 玉野用水・ 玉野水力発電所                                     |
| (5) ● 川沿いの名所・遺産 | ・ 愛岐トンネル群(3号トンネル、4号トンネル、旧中央線笠石洞暗渠)<br>・ 玉野古道・ 玉野川溪谷・ 定光寺駅 |

## 高蔵寺付近から吉根橋付近まで

- ・この辺りは穏やかな流れとなっていますが、所々に流れの速い所があります。
- ・川沿いには、古墳や遺跡が点在しています。
- ・河原や川にたくさんの自然が残っている区間です。

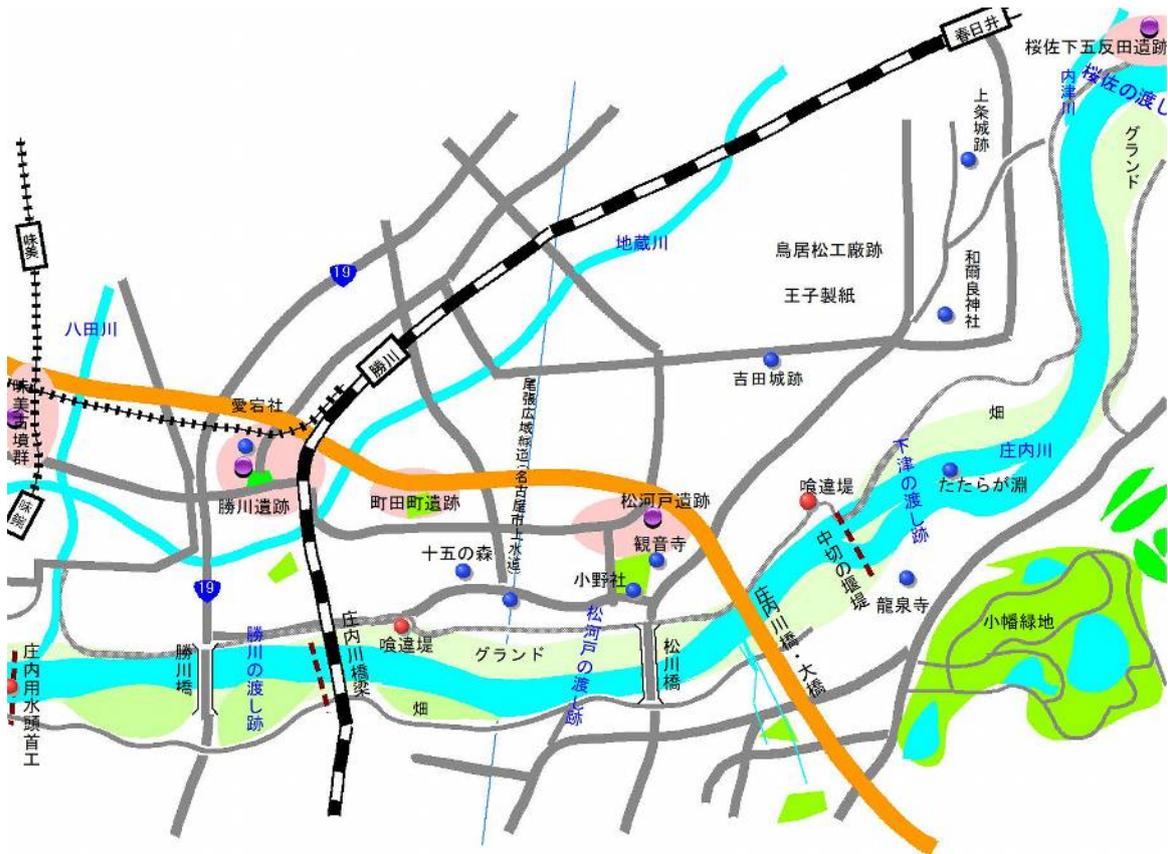


## 主なもの

- (1) ●古墳、古代遺跡
  - ・高蔵寺古墳群 (高蔵寺第3号墳)、(高蔵寺瓦窯跡)
  - ・志段味古墳群(白鳥古墳など)
  - ・気噴古墳群 (気噴7号墳)、
  - ・大留古墳群 (天王山古墳)、(親王塚古墳)、(大留荒子古墳)、
  - ・神領古墳群 (神領第1号墳)(三明神社古墳)(神領第4号墳)3つは三明神社にあり (高御堂古墳) (神領銅鐸)
- (2) 庄内川の渡し跡
  - ・大日の渡し、・野田(吉根)の渡し
- (3) 庄内川に架かる橋
  - ・サイフォン橋・東谷橋・新東谷橋・大留橋(取外し)・志段味橋・庄内川橋
  - ・下志段味橋・吉根橋
- (4) ●治水と水利用
  - ・水位観測所 ・高貝用水堰・上条用水堰
- (5) ●川沿いの名所・遺産
  - ・密蔵院・大留城

## 桜佐町付近から八田川まで

- ・この辺りは穏やかな流れとなっています。たたらが淵あたりは川幅が広がっています。
- ・縄文、弥生時代からの遺跡が見られます(桜佐、松河戸、勝川)
- ・広い河原が公園や畑として利用されているところもありますが、たくさんの自然が残っています。



## 主なもの

- |                 |  |
|-----------------|--|
| (1) ● 古墳、古代遺跡   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・桜佐下五反田遺跡、</li> <li>・松河戸遺跡、</li> <li>・勝川遺跡、</li> <li>・味美古墳群 (二子山古墳)、(白山神社古墳)、(御旅所古墳)、(春日山古墳)</li> </ul> |
| (2) ● 庄内川の渡し跡   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・桜佐の渡し、</li> <li>・下津の渡し、</li> <li>・松河戸の渡し、</li> <li>・勝川の渡し、</li> </ul>                                  |
| (3) ● 庄内川に架かる橋  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内川大橋・庄内川橋・松川橋・庄内川橋梁・勝川橋</li> </ul>  |
| (4) ● 治水と水利用    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・喰違堤・庄内用水頭首工</li> </ul>   |
| (5) ● 川沿いの名所・遺産 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・上条城・吉田城・たたらが淵・観音寺・小野社・十五の森</li> <li>・尾張広域緑道</li> </ul>   |

## (1) 古墳、古代遺跡

古代の人々は、豊富な水と肥沃な土地を求め、庄内川流域の小高くなった場所などに「環濠集落」をつくり、次第にそれらの村々が集まって小国家をつくっていったと考えられます。

庄内川沿いには、縄文後期から近世に至る複合遺跡が多く存在しています。

また4～7世紀頃この地域を納めていた権力者たちの墓だと思われる大小の古墳も多く点在しています。

古墳の主体部は横穴式石室が多く、7世紀中頃からの後期古墳が多く存在しています。

庄内川沿いの主な古墳、古代遺跡について上流からみてみます。

- ① 玉野、高蔵寺辺りの高蔵寺古墳群……………p428
- 高蔵寺第5号墳
  - 高蔵寺第3号墳
  - 高蔵寺瓦窯跡
- ② 東谷山ふもとの志段味古墳群(名古屋側)……………p429
- 白鳥塚古墳など
- ③ 自然堤防上に連なる気噴、大留、神領古墳群……………p430
- 【気噴古墳群】
- 気噴7号墳
- 【大留古墳群】
- 天王山古墳
  - 親王塚古墳
  - 大留荒子古墳
- 【神領古墳群】
- 神領第1号墳
  - 三明神社古墳
  - 神領第4号墳
  - 高御堂古墳
  - 神領銅鐸
- } 三明神社内
- ④ 上条、下津、中切、松河戸辺り……………p434
- 桜佐下五反田遺跡
  - 松河戸遺跡
  - 勝川遺跡
- ⑤ 味美周辺の味美古墳群……………p436
- 二子山古墳
  - 白山神社古墳
  - 御旅所古墳
  - 春日山古墳

(参考資料) 春日井市の地形と主要遺跡分布……………p438

松河戸文化科学探求隊  
 隊長 長谷川 浩  
 080-3657-7052  
 松河戸町の沿革ホームページ  
<http://matsukawado.com/>

## ① 玉野、高蔵寺辺りの高蔵寺古墳群

庄内川は、山々に囲まれた岩石の屹立するなかを急流となって流れています。

高座山と東谷山の山間を抜けると一転して春日井市の街並みがみえ、川は緩やかに流れ、7世紀ころの古墳や、瓦窯跡が発見されています。

高座山南斜面から庄内川の河岸段丘上にわたって多くの古墳があり高蔵寺・高座山古墳群と呼ばれています。

また、高蔵寺第5号墳はこの位置より1.5キロ上流のうぐい川が庄内川へ合流する付近の段丘上の開けた水田の中にあがり、この辺りにも多数の古墳があり玉野古墳群と呼ばれていましたが、今はこの古墳のみで高蔵寺古墳群に含まれています。



高蔵寺・高座山古墳群と庄内川

(東から北西方面をみる平成 23 年頃 市教育委員)

## ○ 高蔵寺第5号墳

- ・春日井市玉野町
- ・7世紀末頃の後期古墳
- ・古墳の盛土と天井石がなくなっており横穴式石室の壁だけが水田の中に残っていたので、地元では古くから石塚と呼んでいた。
- ・石室の全長は右側で8.05m、左側で7.8m
- ・遺品物は、須恵器5種類、刀子・鉄ぞく・馬具などの金属製品7種類17点で、天井石がなくなっているにもかかわらず保存状態が良く、鉄製品が多いのが特色



高蔵寺第5号墳

## ○ 高蔵寺第3号墳

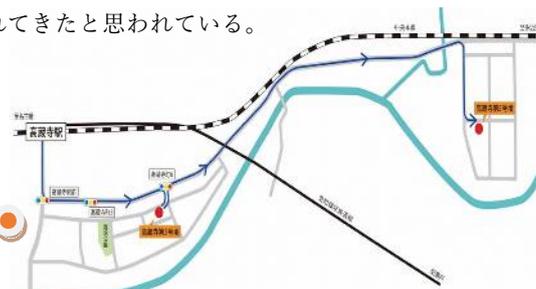
- ・春日井市高蔵寺町6丁目
- ・7世紀初頭の古墳
- ・横穴式石室を有する直径約15mほどの後期円墳
- ・昭和47年に発掘調査され、同49年現位置において復元された。
- ・副葬品は提瓶、広口壺の2点のみ



高蔵寺第3号墳

## ○ 高蔵寺瓦窯跡

- ・高蔵寺3丁目、高蔵寺駅から南西に500m 高座山の南面裾部の河岸段丘面の南端
- ・春日井市内では、7世紀の後半から8世紀にかけての高蔵寺瓦窯と白山瓦窯という2か所の瓦窯跡の存在が知られており、勝川廃寺の瓦は、高蔵寺瓦窯で焼かれ庄内川を運ばれてきたと思われる。



春日井市教育委員会 古墳散歩から

JR 高蔵寺駅南口→(約0.8km・徒歩約10分) 高蔵寺第3号墳→(約2km・徒歩約24分) 高蔵寺第5号墳→(約2.4km・徒歩約30分) JR 高蔵寺駅南口



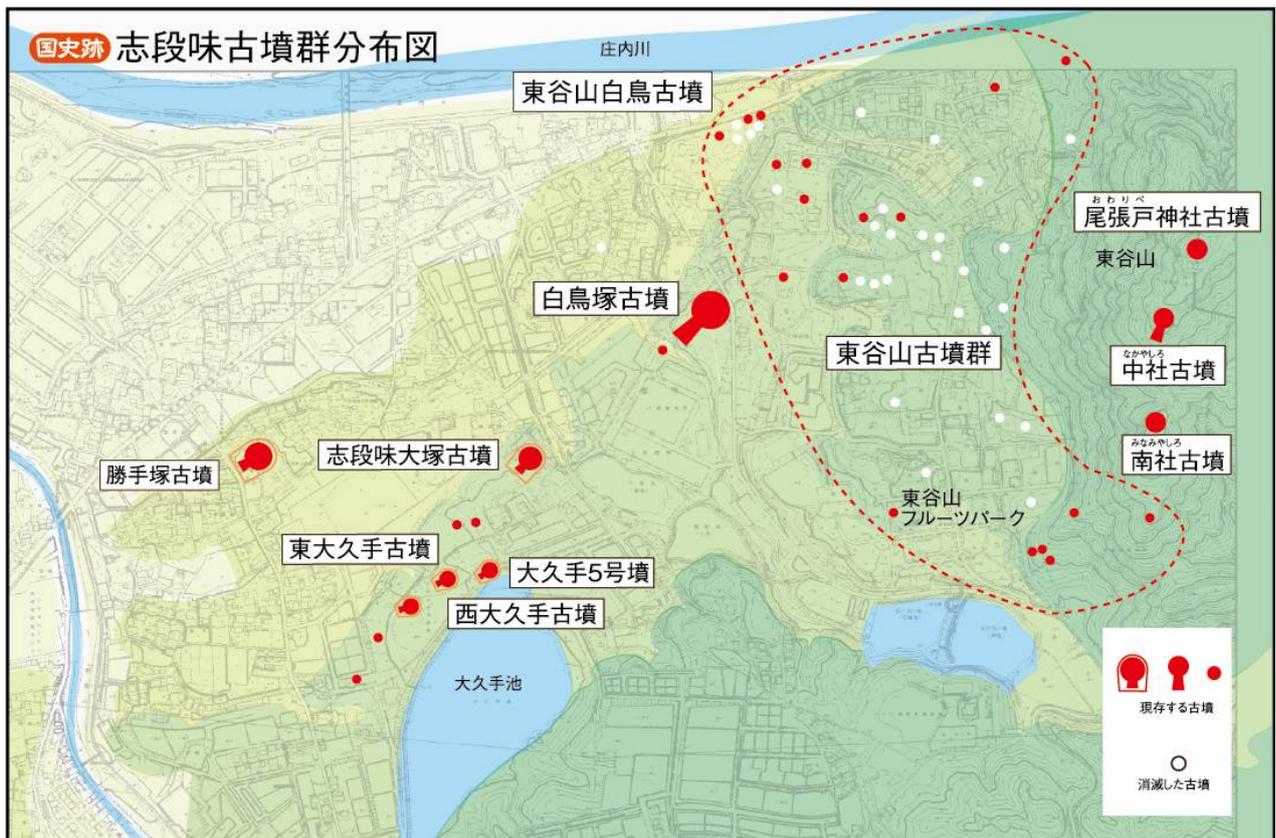
- 高蔵寺第5号墳
- 高蔵寺第3号墳
- 高蔵寺瓦窯跡

## ② 東谷山ふもとの志段味古墳群(名古屋側)

東谷山の麓から龍泉寺にかけての庄内川兩岸の河岸段丘には多くの古墳が築造され、かつて100基を越える古墳が存在していたとされるが、この地区が戦前は軍の演習場であったこと、また戦後は民間への土地払い下げと開発に伴う区画整理が行われたことなどによって多くが失われました。

東谷山のふもとにある上志段味地区には、1972年に国の史跡に指定された「白鳥塚古墳」や、2014年には「尾張戸神社古墳」、「中社古墳」、「南社古墳」、「志段味大塚古墳」、「勝手塚古墳」、「東谷山白鳥古墳」の6基が追加指定されて、これらを含めて「志段味古墳群」と呼ばれており、いずれも4世紀から7世紀にかけて築造されたと考えられています。

名古屋市は、2019年にガダンス施設として、「体感！しだみ古墳群ミュージアム」をオープンしました。



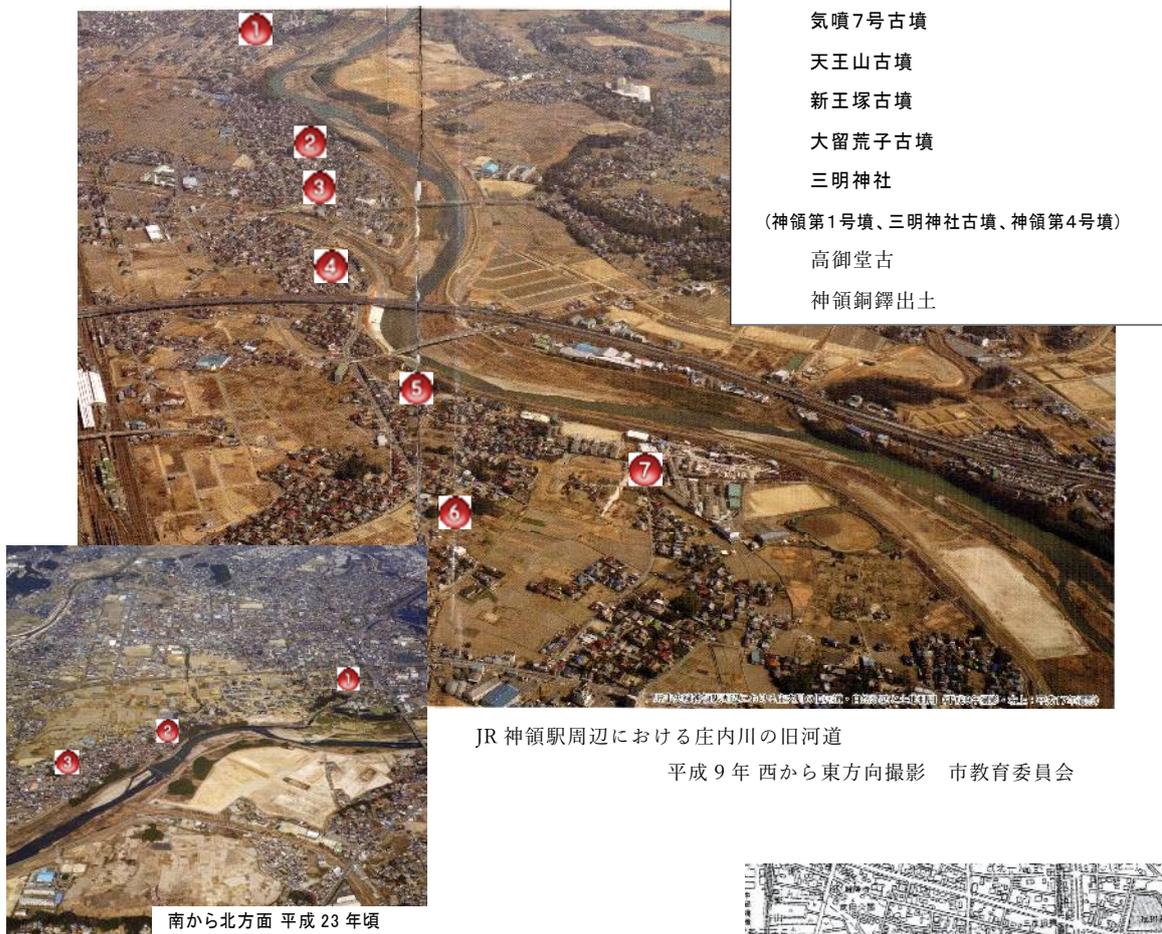
資料

名古屋市役所教育委員会 文化財名古屋保存活用実行委員会

③ 自然堤防上に連なる気噴、大留、神領古墳群

この辺りは、繁田川、内津川が庄内川に合流する地点であり、自然堤防上に4～7世紀ごろの中小の古墳などが多く点在しています。

しかし、区画整理事業による開発が行われ、新たに発見されたものや喪失したものも多数あり、保全活動が進められています。



JR 神領駅周辺における庄内川の旧河道  
平成9年 西から東方向撮影 市教育委員会



気噴古墳群 気噴7号墳

【気噴古墳群】

気噴古墳群は庄内川右岸の台地上、高蔵寺古墳群の下流側に存在している古墳群です。

現在は気噴7号墳が公園内に保存されているのみで、そのほかはいずれも消滅しています。

① 気噴7号墳

- ・春日井市気噴町 気噴公園内
- ・7世紀代の後期古墳
- ・直径12m、高さ2.4mの円墳
- ・主体部は横穴式石室（現在は埋め戻され見学不可）
- ・7世紀ごろ気噴付近一帯を中心とする有力者の家族墓と推定される
- ・蓋杯と思われる須恵器が出土したという(伝承)



気噴7号墳  
平成14年頃 区画整理中



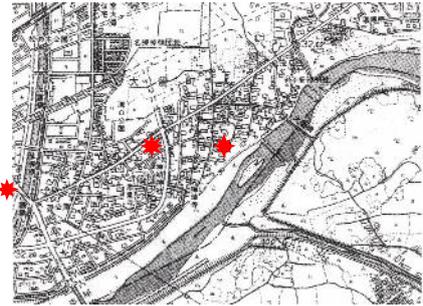
区画整理後気噴公園の中に移された

**【大留古墳群】**

この辺りは、高座山、東谷山の山間を出て南西流する庄内川が、川幅を広げながら西に向きを変える辺りで、かつて10基余の古墳がありましたが、そのうち3基が現存します。

また、平成10年度より発掘調査が行われ、縄文時代中期（約4500年前）、弥生時代後期～古墳時代前期（約1800から1600年前）、古墳時代後期（約1400年前）、鎌倉から室町時代（800から500年前）の遺構が見られます。

竪穴住居が遺構の中心となっており、縄文時代中期1軒、弥生時代後期～古墳時代前期16軒、古墳時代後期2軒の合計19軒の住居が確認されました。



・大留荒子古墳 ・新王塚古墳 ・天王山古墳

**2 天王山古墳**

- ・大留町の天道塚公園内
- ・直径約28.5m、高さ4.5mの円墳
- ・標高約32mの庄内川の自然堤防上に立地している。
- ・明治期の地籍図には竹藪として表記されていた。
- ・前期（4世紀頃）の古墳
- ・天王山古墳の周辺には、自然堤防上に弥生時代後期を中心とする大留六反田遺跡、大留井高上遺跡が所在し竪穴住居、中世集落が確認されている。



天王山古墳 現在公園内にある  
令和元年

**3 親王塚古墳**

- ・大留町の神明社境内の西側に位置する。
- ・直径14mの円墳・横穴式石室
- ・石室の長さは4m、幅1.3～1.6m、高さ1.8m
- ・名称は宗良親王あるいは護良親王の遺品を埋葬したとの伝承による。
- ・6世紀末～7世紀初頭の古墳
- ・昭和43年(1968)12月～44年11月発掘調査が行われている。
- ・当地の北2kmのところに、春日井市で最古に属する出川大塚古墳がある。



親王塚古墳

**4 大留荒子古墳**

- ・大留1丁目の荒子公園に移設
- ・墳径約10m、高さの2.6mの円墳・横穴式石室
- ・被葬者が複数であった可能性もあり、この地域の有力者の家族墓が想定されている。
- ・7世紀前半の古墳
- ・区画整理事業に伴い、昭和63年(1988)に発掘されたのち、平成元年(1989)に内津川沿いにある荒子公園に移設された。



大留荒子古墳

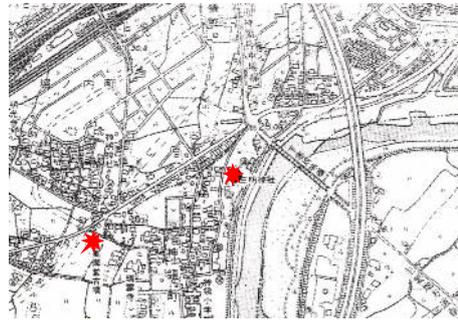
## 【神領古墳群】

神領第1号墳は平成2年に公民館の排水管理設工事に伴い、4号墳は平成22年に地域住民が耕作中に須恵器を採集したことがきっかけとなって発見された古墳で、墳丘は既に失われ、地上に痕跡を留めていませんでした。

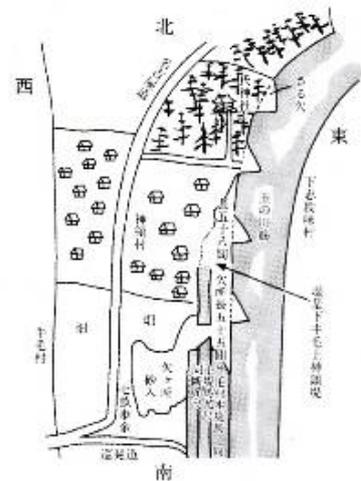
この辺りは、庄内川が大きく曲がり水害の記録が多く残っています。江戸時代に堤防を築いた際の土取りに消えたと思われる。

三明神社社殿の横の林の中に三明神社古墳が現存しており、この南西50mの神社境内地の庄内川右岸の自然堤防上、標高約27mに神領第1号墳(発掘調査後埋め戻されて石柱標識が立っている)が立地しています。この南西約30mに4号墳(平成23年発掘調査後滅失)、さらに明治時代の地籍図には古墳の可能性のある塚の表記が確認できます。

かつて、三明神社境内地を中心に古墳群が形成されたと推定されています。



・高御堂古墳  
・三明神社  
・神領第1号墳、  
・三明神社古墳  
・神領第4号墳



嘉永3年  
神領・牛毛村欠ヶ所絵図

## ⑤ 神領第1号墳

- ・神領町1丁目地内(三明神社境内地)
- ・庄内川右岸の自然堤防上、標高約27mに立地
- ・神社の入り口辺りに解説板があり、この解説版の後方の更地部分が古墳の跡
- ・直径15mの円墳、石室は発掘調査後埋め戻されて石柱標識が立っている。
- ・横穴式石室 長3.3m、幅1.1~1.4m
- ・7世紀後の古墳



神領第1号墳

## ⑤ 三明神社古墳

- ・三明神社境内
- ・本殿後方が小高く盛られている。
- ・直径約20m、墳丘の高さ3.4mの円墳



三明神社古墳

## ⑤ 神領第4号墳

- ・三明神社境内
- ・横穴式石室 直径12m
- ・築造時期は7世紀
- ・洪水で堤防を修復するときの土取りの対象となって消えていった。



神領第4号墳

### 6 高御堂古墳

- ・堀ノ内町5丁目(高御堂公園内)
- ・庄内川の旧河道によって形成された標高25m前後の自然堤防上に立地している。
- ・古墳時代前期と考えられる市内唯一の前方後方墳
- ・墳長63m
- ・4世紀代の古墳築造(市内で最も古い古墳の一つ)
- ・昭和26年に市指定史跡文化財
- ・高御堂古墳の後方部墳裾に沿って高貝用水開削されており、用水の石組みの一部が確認されている。



高御堂古墳 市内唯一の前方後方墳



高御堂古墳の後方部墳裾  
高貝用水石組み検出状況

### 7 神領銅鐸

神領小学校北、神領保育園、貴船神社の境内に接した小川の堤あたりから2点の銅鐸が出土(1858年)したもので、出土場所にそれを示す石柱が立てられています。

貴船神社に秘蔵され、村人たちは雨乞いなどに使っていたとのこと。

この銅鐸は釣鐘状の青銅器で高さ約92cmと大きく、弥生時代後期(1800年前)のもので、三河・遠江地方を中心とした地域で多く発見されている「三遠式」と呼ばれる型式です。

本来の用途については諸説ありますが、一説によると雨乞いや農作物の豊穰を願う農耕祭祀に使用したと言われています。

激しく破損していたが、平成5年(1993)に修復復元され瑞雲寺に保管してある。同時に出土したもう1点の銅鐸は現在行方不明になっている。

平成元年9月に市指定文化財に指定されています。



出土された銅鐸



復元された銅鐸



「近畿式」は鈕(上部の半円式の部分)に飾り耳があるが、「三遠式」はそれがない。  
「三遠式」は短期間で姿を消し、やがて近畿式の分布圏に飲み込まれる。

## ④ 上条、下津、中切、松河戸辺り

この辺りは、春日井市で最も標高の低い地域で、早くから稲作が行われていました。

縄文時代末から近世に至る大規模な複合遺跡がみられます。

区画整理が行われるまで条里制の区画された整然と広がる水田がみられました。

## ○ 桜佐下五反田遺跡

平成 27 年土地区画整理事業に伴う試掘調査により新たな遺跡として確認され、発掘調査が行われました。

庄内川・内津川の合流点の北東(桜佐町字下五反田地内)の氾濫原に位置するところに、縄文、古墳、平安、鎌倉、室町時代の複合集落跡がみられます。

時代ごとに「ムラ」の中心地と分布域が比較的明瞭に分かれており、15 世紀を最後に水田へ変わりましたが、川の氾濫により集落は現況集落が所在する自然堤防(微高地)へ移転したと思われる。

## ○ 松河戸遺跡

平成 8 年(1996)1 月から 10 年(1998)11 月にかけて、区画整理事業に伴う発掘調査が行われました。

道風公園の北部一帯に整然と広がっていた水田地帯に所在する広大な遺跡です。

縄文時代の終わりから弥生時代前期と鎌倉・室町時代の複合集落遺跡です。

稲作農耕が日本に伝わってきた初期の段階の遺物であり、縄文中期・弥生前期・古墳中期の集落、中世の条里地割水田などが確認されています。

特に弥生前期の環濠集落は愛知県下でも最大級の規模を誇り、環濠内および居住域を横断する自然流路から多数の木製品が出土しており、弥生前期の木製品の出土は現時点愛知県では松河戸遺跡のみです。

庄内川下流には、町田遺跡、勝川遺跡、味美古墳群と続いています。

【参照(p329) 14 松河戸遺跡】



庄内川、内津川合流点から東方面を望む

平成 29 年撮影

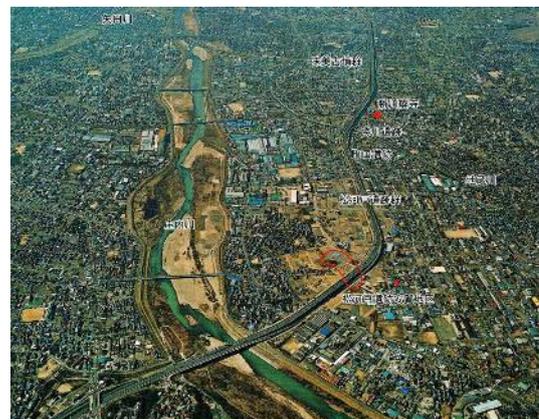
○は、桜佐下五反田遺跡、上方(上流)に気噴・大留・神領古墳群がみえる。

下方(下流)には松河戸遺跡などがある。



桜佐下五反田遺跡

区画整理事業に伴う発掘調査中 平成 29 年撮影



松河戸遺跡を東上空から望む(平成 8 年撮影)



松河戸遺跡 現地説明会 平成 8 年 8 月

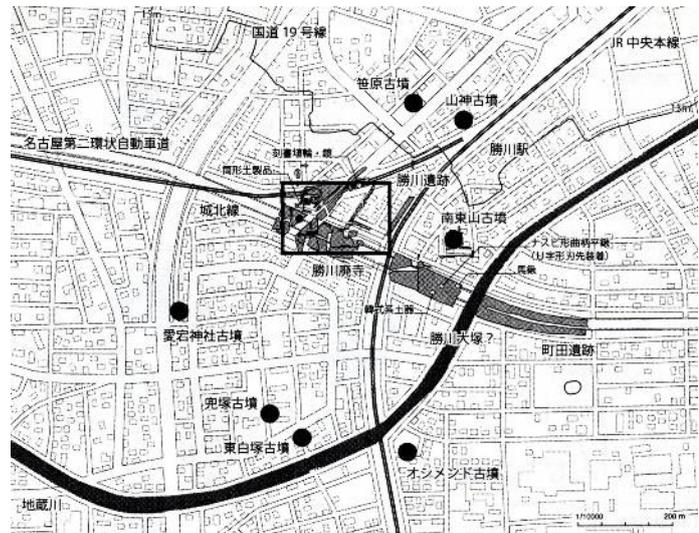
○ 勝川遺跡

JR 中央線を挟み、東名阪自動車道の高架が交差する勝川町 5 丁目を中心に庄内川の右岸に位置します。

勝川遺跡の推定範囲は東西約 600m・南北約 400m、立地地形上は段丘崖から庄内川・地蔵川の氾濫原にかけての広大な地域に及びます。

環濠集落、古墳(勝川古墳群)等、弥生時代、古代寺院(勝川廃寺 7 世紀末奈良時代)から近世の町家に至る市内屈指の複合遺跡で、継続的な大規模拠点集落であったことがうかがえます。

出土遺物は弥生土器、壺、甕・高坏、須恵短頸壺、瓦類、山茶碗があります。



勝川遺跡・古墳群・廃寺



古代遺跡 竪穴住居完掘状況(北東から)



愛宕(あたご)神社古墳

勝川町内の国道 19 号線沿いにあり、勝川古墳群で唯一現存する古墳です。

墳丘は社殿造営により原形を留めていませんが、直径 16.5m の円墳とされています。



▲勝川廃寺遺跡出土の軒丸瓦(正面と横)

▲同軒平瓦



勝川廃寺

勝川では方々で布目瓦が拾え、白鳳から奈良時代の寺院跡の存在が推定されていました。

土地区画整理事業に伴い、昭和 55 年からの調査の結果、その範囲は勝川町 5 丁目を中心とする東西 227m 南北 148m と推定されています。

これらの瓦は高蔵寺町の瓦窯で焼かれたと考えられています。

昭和 57 年 春日井市

⑤ 味美周辺の味美古墳群

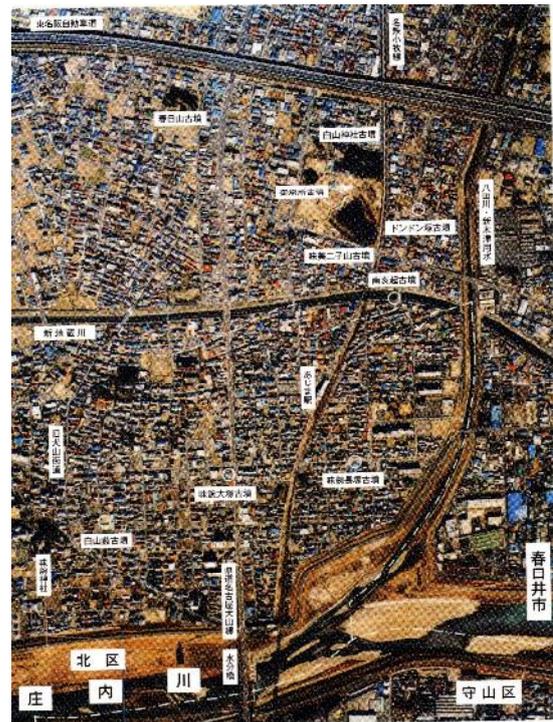
国の史跡に指定されている二子山古墳（前方後円墳・墳長 96m）、愛知県の史跡に指定されている白山神社古墳（前方後円墳・墳長 86m）、御旅所古墳（円墳・径 31m）、そして白山神社から県道 102 号を挟んで西方約 300 メートルに位置する春日山古墳（前方後円墳・墳長 74m）があり、合わせて 3 基の前方後円墳と 1 基の円墳が現存しています。

この他にかつて「味美」（春日井市二子町他）から「味鏡」（名古屋市北区）にかけて、百基以上存在した古墳を「味美古墳群」と総称しています。

古墳の年代については、埴輪などの特徴から 5 世紀の後半頃と推定されます。

二子山古墳から発掘された埴輪から味美古墳群の埴輪は近くを流れる八田川の上流にある下原古窯跡群（春日井市）で生産されたと推定されています。

須恵器製作技法を用いて大量生産され、このことから須恵器工人が製作に携わっていたことが推測されます。



味美古墳群現況 [平成 9 年 3 月撮影]

春日山古墳



昭和 52 年(1977)当時の味美古墳群  
写真右下に味美二子山古墳、その上に味美白山神社古墳、その左手にある小規模な円墳が御旅所古墳で、写真左上には味美春日山古墳が見える。

国土交通省



昭和 24 年(1949)当時の味美古墳群  
国土交通省 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービスの空中写真を基に作成。

## ○ 二子山古墳

- ・春日井市で最大の規模を誇る古墳
- ・盾形の周溝をもった前方後円墳

全長 96m

後円部径 48m、高さ 8m

前方部幅 65m、長さ 54m

くびれ部幅 38m

- ・築造年代は、出土した埴輪や須恵器などから 6 世紀前半（約 1500 年前）とされている。

（昭和 11 年に国指定史跡）

## ○ 白山神社古墳

- ・前方後円墳

墳長約 86m、後円部径約 48m、高さ約 6.5m

前方部幅約 48m、長さ約 348、高さ約 5m、くびれ部幅約 30m

- ・墳頂に白山神社があり、周りに周濠をめぐらしている。
- ・平成 19 年度に発掘調査が実施され、出土した須恵器や埴輪から 5 世紀末から 6 世紀初頭の築造であると考えられる。

（昭和 58 年に県指定史跡）

## ○ 御旅所古墳

- ・円墳で、墳丘上に祠がある。

墳径 31m、墳高 2.9m

- ・出土した埴輪から 5 世紀末から 6 世紀初頭の築造で、埴輪の特徴から白山神社古墳に後出するものと考えられる。

（昭和 58 年に県指定史跡）

## ○ 春日山古墳

- ・白山神社から県道 102 号を挟んで西方約 300 メートルに位置する。

- ・前方後円墳

墳長約 74m、後円部径約 38m、

高さ約 6m、前方部幅約 43m、

長さ約 37m、高さ約 4.5m、

くびれ部幅約 30m

- ・築造時期は 6 世紀後半と考えられる。

## 味美古墳群コース（全長約 2km）



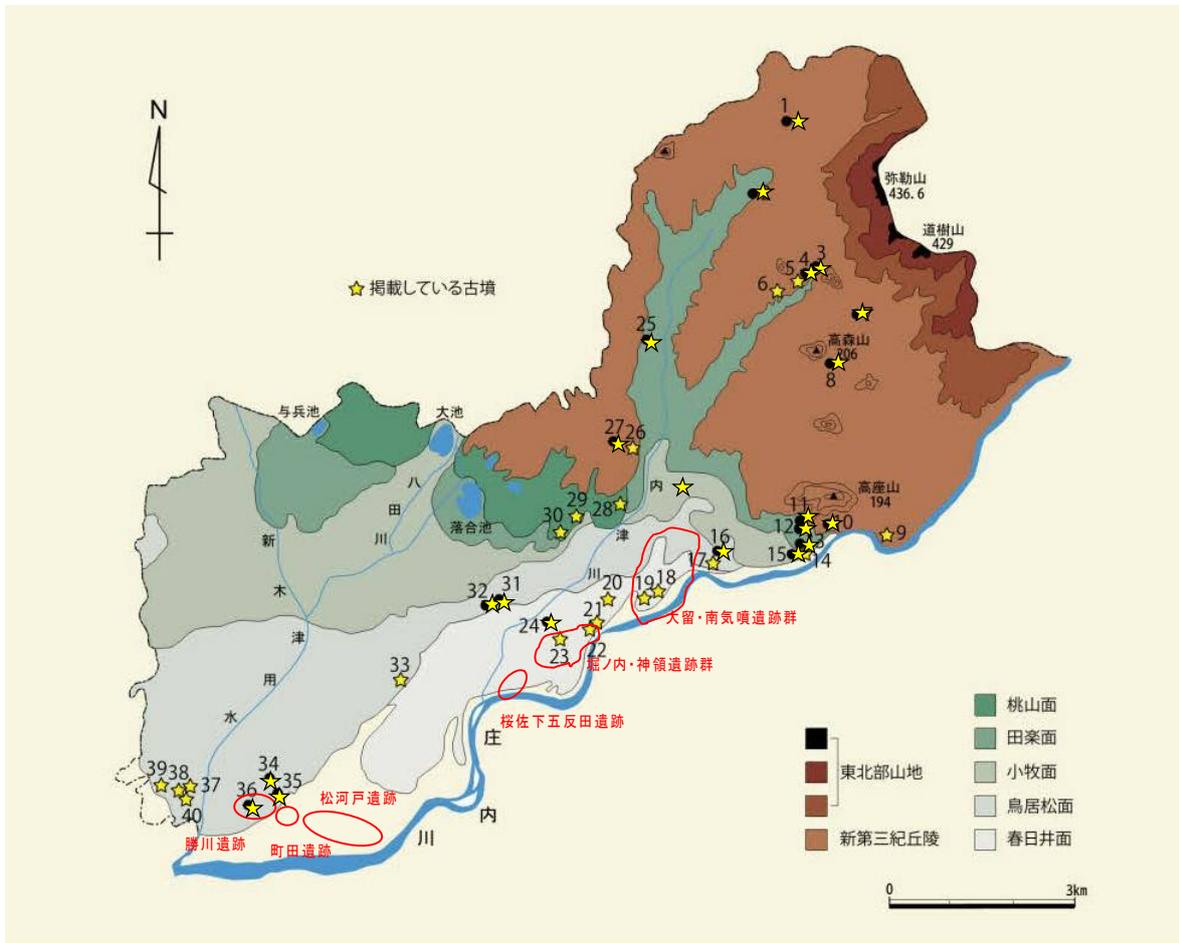
名鉄小牧線味鋺駅 →（約 0.8km・徒歩約 10 分）二子山公園 →（約 30m・徒歩約 1 分）二子山古墳・白山神社古墳・御旅所古墳 →（約 55m・徒歩約 1 分）ハニワの館 →（約 0.5km・徒歩約 6 分）春日山古墳 →（約 1km・徒歩約 15 分）名鉄小牧線味鋺駅

## 資料

春日井市教育委員会 文化財課の資料から

春日井市教育委員会 古墳散歩から

(参考資料) 春日井市の地形と主要遺跡分布



- 1:欠之下古墳 2:明知第1号墳 3:廻間第8号墳 4:廻間第9号墳 5:廻間第7号墳 6:廻間第1号墳  
 7:大久手古墳 8:高森山古墳 9:高蔵寺第5号墳 10:高座山第1号墳 11:高座山第3号墳 12:高座山第2号墳  
 13:高蔵寺第4号墳 14:高蔵寺第3号墳 15:高蔵寺第2号墳 16:大垣戸狐塚古墳 17:気噴第7号墳  
 18:天王山古墳 19:親王塚古墳 20:大留荒子古墳 21:三明神社古墳 22:神領第1号墳 23:高御堂古墳  
 24:堀ノ内第1号墳 25:神屋第1号墳 26:富士社古墳 27:猪之洞古墳 28:出川大塚古墳 29:オフジ古墳  
 30:オセンゲ古墳 31:篠木第9号墳 32:篠木第2号墳 33:八事神明社古墳 34:笹原古墳 35:南東山古墳  
 36:愛宕神社古墳 37:白山神社古墳 38:御旅所古墳 39:春日山古墳 40:二子山古墳

資料 市教育委員会文化財課

## (2) 庄内川の渡し

明治の初め頃まで物資の運搬にとって水運が重要でしたが、陸上交通の面からみれば川は大きな障害でした。江戸時代庄内川は軍略上の理由から橋がかけられず舟渡しでしたが、渇水期には仮橋を架けるところもあり、徒渡も随分あったと思われます。

街道はもちろん主要な生活道の近くには、対岸へ行き易い所を選んで「渡し」が造られていました。

先人たちがこの場所になぜ「渡し」や「橋」を造ったのかを考えてみるのもおもしろいと思います。庄内川にあった春日井市境の主な「渡し」を上流からからみてみます。



- ② 岩瀬の渡し ..... p440
- ② 入尾の渡し..... p440
- ③ 大日(大留)の渡し ..... p440
- ④ 野田(吉根)の渡し..... p441
- ⑤ 桜佐の渡し..... p441
- ⑥ 下津の渡し..... p441
- ⑦ 松河戸の渡し..... p442
- ⑧ 勝川の渡し..... p443
- ⑨ 味鉢の渡し..... p443

松河戸文化科学探求隊  
 隊長 長谷川 浩  
 080-3657-7052  
 松河戸町の沿革ホームページ  
<http://matsukawado.com/>

## ① 岩瀬の渡し

玉野と対岸の岩瀬(古地名)との間にあり、今は玉野橋がかかっている辺りにありました。両側とも峡谷になっているため、水量の多い時は流れが速くとてもこわかったといえます。内津、外之原方面から水野・瀬戸や定光寺へ通じる近道でした。昭和10年頃仮橋が完成するまででありました。

## ② 入尾の渡し

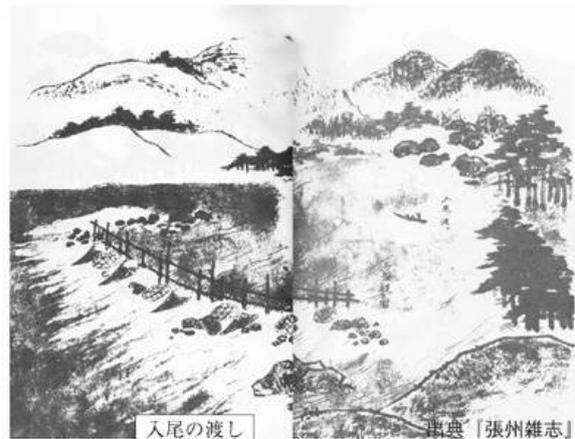
この渡しは、玉野川峡谷の終了地点(愛知環状鉄道の橋梁の直下)辺りにあり、高蔵寺と入尾(古地名)を結び、春日井郡の村々から水野代官所へ行く場合や、玉野道から定光寺へ出て、下半田川から中馬南街道を木曾方面へ通じているので、この辺りの中心的な渡しでした。

渡し賃を取るだけでは不足するので、周辺の村々が分担金を出して必要経費をまか纳っていました。

急流で危険を伴う渡船であったので、明和2年(1767)尾張藩の御船奉行から運航の指示書も出されており、渇水期には板橋が架かっています。

中央線の高蔵寺駅が明治33年に開設されて、瀬戸方面からの往来が増えて大賑わいになったため、兩岸を結ぶ鋼鉄線を張ってこれと船をロープでつないで引っ張る方法をとったそうです。

明治43年に鹿乗橋が完成して渡しはなくなりました。



入尾の渡し、 出典 張州雜志

客2人を乗せた小船が入尾から高蔵寺へ向けて玉野川を渡っている。  
その下流には木杭を打ち小枝を詰めて川を堰き止め、打盤艘を入れてアユをとる仕掛けが造られている。

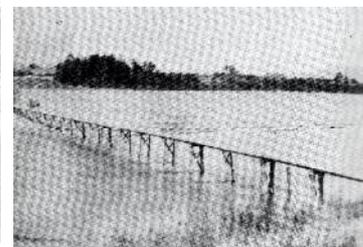
## ③ 大日(大留)の渡し

志段味橋上流約100m、旧大留橋やや下流にあり、上大留の大日堂(禅源寺)の前と中志段味を結んでいた。

大日堂には舟頭が常駐し弘法の祭りの時には大いに賑わったといえます。

天正12年(1584)「小牧・長久手の戦」の折には、秀吉側の池田・森軍が渡河したところでもあります。

大正13年、大留橋がかかるまで渡しがありました。



大正13年に本流部分に架けられた木造の橋  
この橋が架けられるまで、大日の渡しがあった。

## ④ 野田(吉根)の渡し

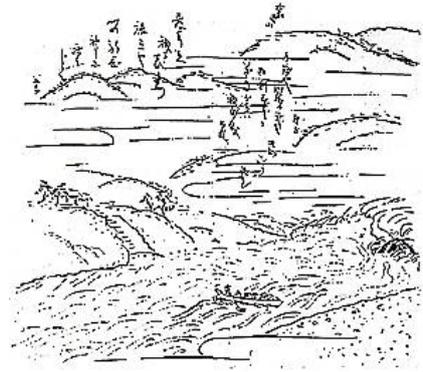
吉根橋の下流 150～160m 辺りにあり、密蔵院の南の野田 と 守山の吉根を結んでいました。

川幅が狭く流れが緩やかな浅瀬を、渇水期には歩いて渡り、増水期は渡船にて渡っていました。

大正時代には、吉根の郷船と呼ばれる 20 人乗りの船で、渡し賃は 2～5 銭の志で、村の費用を加えて運営されていました。

船頭さんは岸近くの小屋に待機して、客があり次第対応していました。

天正 12 年(1584)「小牧・長久手の戦」の折りには西軍堀秀政隊がこの渡しを渡ったと伝えられています。



野田の渡し、内津神社保管  
絵:『内津道中記』より

棹で漕ぐ船頭が 6 人ほどの客を乗せて庄内川を渡している。

春日井側手前は河原となり、守山側は崖上がったところに建物が 2 棟描かれている。

## ⑤ 桜佐の渡し

庄内川と内津川の合流点近くにあり、桜佐の水神様の石碑の前から吉根へ、通常は徒歩(かち)にて渡り、増水期には渡船が出ていました。

舟頭は吉根と桜佐におり両岸には舟小屋があり、地元の人々は無料、他は志として少々の渡し賃を取り、舟頭には謝礼として吉根村から米や麦が贈られていました。

内津川合流点より約 200m 上流の庄内川右岸には霧堤がありました。上条用水の改修や堤防道路の完成とともに霧堤は姿を消しましたが、内津川左岸にその一部が残っています。



春日井市桜佐町の庄内川堤防下に祀られている「水神様」。

## ⑥ 下津の渡し

松河戸の渡しから上流へ 2Km のところに「下津の渡し」がありました。

下津尾から龍泉寺への道にあり、流れの緩やかな淵で、広い河原の中に、船着き場まで道ができていました。

対岸の龍泉寺の下へ着いたので、初観音(正月 18 日)や節句のときは参拝の人たちが多く利用しました。

昭和 14 年(1939)頃までは通常に運航されていましたが、昭和 13 年に松河戸に橋が架けられたことで昭和 17 年(1942)に廃止されました。



現在の下津の渡し跡

下津の人達によって記念として建てられた。

船賃は大正中期から昭和 13 年頃までは片道 2 銭でした。

また竜泉寺の節分や初観音の時など利用客が多い時は、本流のみに橋を架け片道 2 銭(往復 3 銭)を取っていたこともあります。

昭和 40 年(1965)頃まで、龍泉寺の節分や初観音の時にだけ運航して参詣の人々が利用していました。

舟は笹舟で木曾川からの払い下げを購入し、料金は片道 20 円、往復 30 円で、県の許可のもと「渡し賃」が取られていました。

松河戸の人たちも、この時期は松河戸橋があってもこの渡しを利用して龍泉寺へ行ったものです。



『春日井・小牧の昭和』樹林舎  
1962 年(昭和 37)頃



下津の渡し(1962 年(昭和 37)頃)

## ⑦ 松河戸の渡し

現在の松川橋の下流約 150m(河口から 25.2Km)の浅瀬を笹舟(小舟)により運行し、江戸時代、渇水期には水の深い部分だけ板橋を設けて人馬を渡していたようです。

享保 5 年(1720)に橋が架けられたことがありましたが、勝川村の訴えで取り払われました。

(勝川の渡しとの権利争い。当時勝川村は宿場的機能があり一帯に大きな力を持っていた。)

大正時代の終わりには両岸に綱を張り、それを手繰って操船していたといえます。

古くは松河戸村が運行を担当していましたが、大正時代には川村が担当していました。

昭和 8 年(1933)流れの部分にのみ小橋が架けられ渡しは廃止となりました。

天正 12 年(1584)4 月 8 日「小牧・長久手の戦」の折西軍秀吉方の三好秀次隊 8 千人が長久手を目指してここを渡河したといわれています。

【参照(p146)3 暮らしと川 (5)渡しと橋】



庄内川に浮かぶ船 (明治 33 年年頃)

現在の松川橋の下流約 150m(東雲の松辺り)の浅瀬を笹舟(小舟)により運行し、県道の渡し場で運賃は無料だった。山の上に龍泉寺が見える

白沢小学校 15 周年記念誌『白沢のながれ』より。



松河戸釣人(『名区小景』三編より)

『名区小景』(小田切春江著、弘化 4 年・1847)の版画の一つに「松河戸釣人」として描かれている。

庄内川で魚を釣る人が 5 人、下流の流れの狭い所に木の橋が架けられている。馬を引いた人が渡っている。

## ⑧ 勝川の渡し

庄内川を渡る下街道は、現在の勝川橋のやや上流にあり橋がなかったが、渇水期の秋から春は仮橋を架け渡し賃を徴収していました。

橋から上がる収益は近くの村にとっては重要な収入源でしたが、渡し賃の配分、修理代などを巡り勝川村・瀬古村・松河戸村と明治時代に橋が架けられるまで紛争が続きました。

また、渡しについては、藩からの助成はとくにないので、船頭の給金の不足分は近隣の村々が負担していました。

堤には酒肴を売る店などあり、多くの人々が利用し賑わっていたといえます。

天正12年(1584)「小牧・長久手の戦」の折には東軍家康隊がここを渡河し、小幡城に入城しています。



勝川の里 嘉永元年頃の勝川仮橋 名区小景より

庄内川の対岸から遠望した勝川の里が描かれている。守山の瀬古側の堤防上には大きな3本松が、近景とし描かれ、川中には仮橋がかかり小さな小屋が1つある。

人や馬の通行はなく、静かなたたずまいである。

勝川里の背景には、犬山方面の山並みが描かれ、その前には松河戸の里、右手に春日井原の丘陵が延びている。

## ⑨ 味鋺の渡し

「尾張洵行記」に「小牧街道味鋺川渡場 9月ヨリ3月マデハ仮橋、3月ヨリ9月マデハ舟渡ナリ、此横越船、先年御船手役所ニテ造作アリ、水主ハ村方ニテ八人ツツ出、上七十ヶ村問金住来人馬賃銭ヲ取来レリ」とあります。

江戸時代には、季節によって渡る方法が違っていました。

また、渡しの代金は「味鋺川渡船馬一駄八文、商人五文、平人四文、大水ニハ一五文二〇文、又ハ八文七文、水涸ニハ涉リ不苦也」渡船・仮橋ともに木曾街道(本街道)は藩の公道(藩が管理していた)だったため、下街道の勝川の渡しよりも代金が安かったようで。



## 参考資料

郷土誌かすがい第20号春日井をとる街道7 庄内川の渡し

郷土誌かすがい第66号春日井をとる街道24 図会にみる景観

郷土誌かすがい第73号庄内川の水運

名古屋市守山区歴史散歩 守山区を巡る橋

庄内川の渡しメモ

## (3) 庄内川に架かる橋(上流から)

尾張藩は防衛の観点から大きな川の架橋には消極的で、渡河は「徒渡」や「渡し」が基本でした。しかし渇水期には仮橋が設けられているところもありました。

春日井市の境界を流れる庄内川には、かつて10か所程の「渡し場」がありました。その場所には、現在橋が架けられているところが多くあります。

上流から庄内川に架かっている橋を見ていくことにします。

- ① 城嶺橋(県道 205 号)…………… p446
- ② 玉野橋……………p446
- ③ 鹿乗橋(県道 53 号) (河口から 36.8km) …… p447
- ④ 庄内川橋梁(愛知環状鉄道)…………… p447
- ⑤ 愛知用水サイフォン橋…………… p447
- ⑥ 東谷橋(河口から 35.2km) …… p448
- ⑦ 新東谷橋(国道 155 号) (河口から 35.0km) ……p448
- ⑧ 大留橋【平成 25 年(2013)撤去】……………p448
- ⑨ 志段味橋(県道 214 号) ……p449
- ⑩ 庄内川橋(東名高速道路) ……p449
- ⑪ 下志段味橋(県道 75 号) …… p448
- ⑫ 吉根橋(県道 213 号) (河口から 30.0km)……………p449
- ⑬ 庄内川大橋(国道 302 号) ……p450
- ⑭ 庄内川橋(名古屋第二環状自動車道)……………p450
- ⑮ 松川橋(県道 30 号) (河口から 25.2Km)……………p450
- ⑯ 庄内川橋梁(中央本線) (河口から 23.7Km)…………… p451
- ⑰ 勝川橋(国道 19 号) (河口から 23.2Km)…………… p451

松河戸文化科学探求隊  
隊長 長谷川 浩  
080-3657-7052  
松河戸町の沿革ホームページ  
<http://matsukawado.com/>

## ① 城嶺橋(県道 205 号)

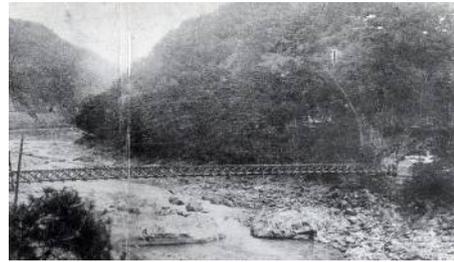
初代城嶺橋は名古屋開府 300 年を記念し、明治 42 (1909) 年 3 月に着工、翌年完成した木橋であったが、その年に大水で流失してしまった。

大正元年(1912)年には 2 代目のつり橋が完成し、この時から定光寺駅新設運動が本格化した。駅が出来たのは大正 13 年(1924)であった。

現在の橋は、3 代目で昭和 12 年 (1937) に京都四条大橋を模してコンクリートアーチ橋が造られた。

名前の由来は一説には近くの山頂から名古屋城が見えることから名づけられたとのこと。

大正期の水平線、垂直線を強調する「セセッション」風デザインで、尾張徳川家 19 代義親氏による「城嶺橋」の揮毫を親柱に持っている。

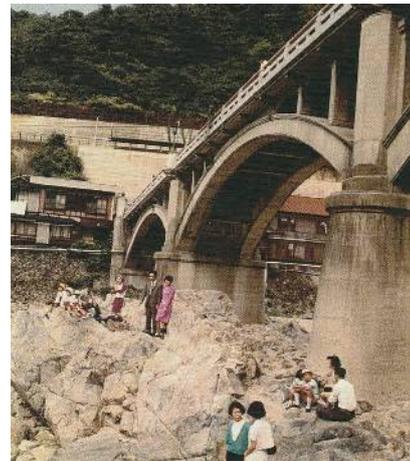


2代目城嶺橋の「つり橋」(大正元年完成の頃)

この辺りから鹿乗橋付近までは、名古屋の奥座敷ともいわれる景勝地で、愛知高原国定公園にも指定されており、かつて多くの旅館があり賑わっていた。



3代目の城嶺橋 (昭和 40 年頃)



城嶺橋 (昭和 43 年頃)

## ② 玉野橋

かつて「岩瀬の渡し」があった辺りにある。

庄内川の急流に十分耐えるよう二本の太い橋脚がささえるコンクリート造りの本格的な橋で昭和 32 年(1957)に架け替えを行った。

内津、外之原から、水野、瀬戸へ行く近道として便利である。



玉野橋 (令和 2 年)



玉野橋 (昭和 36 年頃) 春日井市

## ③ 鹿乗橋(県道 53 号) (河口から 36.8km)

景勝地の溪谷に架かる鹿乗橋は、かつて「入尾の渡し」があった辺りにある長さ 73m、幅 4.5m の橋で、明治 43 年 (1910) の完成時には鋼ブレーストリブド・アーチで、メラン工法で建設された美しい橋だった。



建設当時のままの鹿乗橋

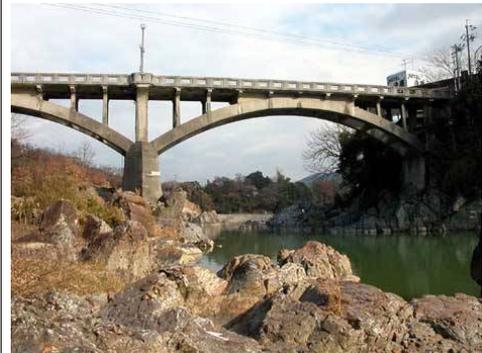
昭和 26 年 (1951) に、鉄骨の腐食により強度が建設当初の半分近くになったため、鉄筋コンクリートで被覆され現在に至っている。

明治時代に作られた、11 のスチールアーチ橋のうちの現存するひとつとしても、貴重な存在である。

橋銘の由来は、「東谷山の祭神が白鹿に乗って渡河し高倉明神の許に通われた」という言い伝えで、玉野川に「鹿乗ヶ淵」の地名ができ、ここから「鹿乗」が命名されたという説もある。

昭和 5 年 2 月 20 日に、全国初の省営 (鉄道省) バスが岡崎～多治見間及び瀬戸記念橋～高蔵寺間で営業を開始してこの橋を渡った。

昭和 5 年「東京瓦斯電気工業」(現いすゞ自動車、日野自動車など) が、官民協力で製造した初の国産バス  
岡多線(岡崎～多治見、瀬戸記念橋～高蔵寺)で、昭和 37 年までつかわれていた。  
名古屋市港区、リニア・鉄道館に保管されている国鉄バス第 1 号車  
2021 年 10 月重要文化財指定



鉄筋コンクリートで被覆された鹿乗橋

## ④ 庄内川橋梁(愛知環状鉄道)

愛環鉄道は、高蔵寺から岡崎市までをつないでおり愛知県などが出資する第三セクター方式の鉄道事業である。

昭和 63 年(1988)愛知環状鉄道線 (岡崎駅 - 新豊田駅 - 高蔵寺駅間) が開業。100 系電車の営業運転を開始する。



庄内川橋橋梁(愛知環状鉄道)

左側に愛知用水サイフォン橋が見える。  
(昭和 61 年頃) 春日井市

## ⑤ 愛知用水サイフォン橋

愛知用水は、木曾川の牧尾ダム、味噌川ダム、阿木川ダムの 3 つを水源に美浜町の美浜調整池に達する 112 キロメートルの幹線水路と、幹線水路から分岐して農業用の水を導く支線水路 1,012 キロメートルからなっており、昭和 36 年(1961)に造られる。

高蔵寺ニュータウンは愛知用水の水を利用することを前提として造られた。



この橋は、幹線水路が可児市から愛知県に入り、犬山市、小牧市、春日井市から名古屋市守山区へ行く庄内川をまたぐサイフォン橋である。

東谷橋から南東に見る東谷山 名古屋市の最高峰、198.3m  
手前のアーチ橋は愛知用水サイフォン橋(水道橋)  
春日井市・瀬戸市間 右岸下流から (令和 2 年)

## ⑥ 東谷橋 (河口から 35.2km)

大正 2 年(1913)頃にできた旧橋は、現在より 500m 程下流、現新東谷橋辺りにあり、本流部分のみに架けられたもので、それ以前は「平内の渡し」があり、渡し船は村人により運営されていた。



美しいデッキトラス工法の橋 左岸下流から (令和 2 年)

現在の橋は、昭和 33 年(1958) 3 月、長さ 160m、幅 6 m のデッキトラス工法の橋が架橋された。



昭和 33 年東谷橋の渡り初め

高蔵寺側から守山区上志段味に向かって渡り初めをしている。桑原県知事の後に 3 夫婦が招待されている。渡り初めには、3 世代の夫婦が揃った一家、または高齢の夫婦に先頭で渡ってもらう習慣があった。めでたさにあやかり、橋が長く保つように願う意味があった。

本流部分のみに架けられた旧橋  
大正 15 年 上志段味誌

## ⑦ 新東谷橋(国道 155 号) (河口から 35.0km)

昭和 59 年(1984)建設 長さ 256m、幅 10m、新東谷橋南交差点(守山区)に至る国道 155 号の長大橋となっている。



新東谷橋 左岸下流から (令和 2 年)

## ⑧ 大留橋【平成 25 年(2013)に撤去】

大留町と上志段味に架かっていた。幅 1.8m 程の人道橋で、昔は近くに「大日の渡し」があった。

大正 13 年(1924)本流部分に木橋が架けられ、最後に残っていたのは昭和 39 年(1964)年に造られたものだった。

春日井市側はコンクリート橋脚に鉄橋、中央はトラス橋、守山側は木橋と自治体の不整合さがあらわれたユニークな橋で、管理は春日井市が行い大雨、強風時には閉鎖されていた。平成 25 年(2013)春に完全に撤去された。

大正 13 年に本流部分に架けられた木造の橋  
この橋が架けられるまで、大日の渡しがあった。

昭和 39 年に造られた大留橋 左岸下流から (平成 10 年)



大留橋 名古屋方面へ (平成 10 年)

## ⑨ 志段味橋(県道 214 号)

大正 14 年(1925)に初めて架橋されたが、昭和 15 年(1940 年)に一部流失、改修されたが、昭和 27 年(1952)豪雨により再度一部流失、補修されたが昭和 32 年(1957)の集中豪雨でまたも流失した。

三年後の昭和 35 年(1960)に長さ 133m、幅 3 m の木橋が架橋され、昭和 49 年(1974)11 月新たに改修された。



志段味橋 左岸下流から (令和 2 年)

## ⑩ 庄内川橋(東名高速道路)

東名高速道路の春日井市・名古屋市境に架かる橋で、昭和 44 年(1969)に東名高速が開通の時に架設した。

写真(2020 年 8 月)は、更新工事を進めているところで、床版下面に鉄筋腐食によるコンクリートの剥落や遊離石灰、ひび割れなどの損傷が発生しているとのことで、床版を取り換える作業を行うため足場を設置している。

下志段味橋上流約 180m 程にある東名高速道路庄内川橋  
右岸上流から(令和 2 年)

## ⑪ 下志段味橋(県道 75 号)

昭和 25 年(1950)架橋、昭和 32 年(1957)の集中豪雨で流失。

3 年後の昭和 35 年(1960)に長さ 198m、幅 3 m の木橋が架橋され、その後、昭和 47 年(1972)8 月に長さ 202m、幅 11m の鋼橋が架橋された。



下志段味橋 右岸上流から (令和 2 年)

## ⑫ 吉根橋(県道 213 号)(河口から 30.0km)

大正 3 年(1914)、冬の渇水期のみ、本流に幅約 1.8m 程の木橋が架けられ、夏期には取り外されていた。

その後本格的な木造の橋が架けられたが昭和 32 年の洪水で半壊してしまい昭和 35 年に待望の鉄筋コンクリートの橋ができた。

現在は、平成 5 年(1993)1 月、春日井市熊野町-吉根に至る県道 213 号の長大橋として架橋された。

橋の下(下流の右岸)に上条用水(左岸は神明用水)の堰がある。

昭和 35 年吉根橋の渡り初め  
熊野町から守山区吉根町を望む昭和 32 年 庄内川の洪水で半壊の吉根橋  
熊野町から吉根方面のぞむ現在の吉根橋、右下は上条用水の堰  
右岸下流から (令和 2 年)

⑬ 庄内川大橋(国道 302 号)

名古屋環状 2 号線の一般部の橋として架設された。  
この東北部区間は、平成 5 年(1993)2 月に開通した。  
橋の途中に 3 カ所展望場所が設けてあり、そこから  
は、東部山地が望め、眺めは格別である。



庄内川大橋(国道 302 号)右岸上流から (令和 2 年)



真ん中の展望場所から東部山地を望む  
令和 2 年

環状 2 号線の庄内川  
大橋の開通式  
(平成 6 年 10 月)

写真は、勝川～名古屋  
守山区喜多山の庄  
内川大橋区間の開通  
式の様子。



⑭ 庄内川橋(名古屋第二環状自動車道)

名古屋環状 2 号線の専用部の橋として架設された。  
この東北部区間(勝川 IC から上社 JCT9.00 km)は、  
平成 5 年(1993)12 月に開通した。

1 つのアーチでできたきれいな橋である。



庄内川橋(名古屋第二環状自動車道)(右岸下流から)  
(令和 2 年)

※ 名古屋環状自動車道は、名古屋市外周を走る環状一般道として昭和 32 年に計画された。昭和 42 年に自動車専用部(高速道路)を併設する道路に都市計画が変更され、以降、順次各区間が開通していった。

⑮ 松川橋(県道 30 号) ((河口から 25.2Km)

かつて「松河戸の渡し」が下流近くにあった。  
昭和 13 年(1938)に本格的な木造の自動車が通れる  
橋が出来たが、1957 年(昭和 32)の集中豪雨で大破した  
ので、1961 年(昭和 36)に上流 139m に新たに長さ 297m、  
幅 7 m の鋼橋が架橋された。

【 参照(p146)3 暮らしと川 (5)渡しと橋 】



松川橋(県道 30 号)(右岸上流から)(令和 2 年)



龍泉寺から庄内川・松河戸方面を望む (昭和 8 年頃)

中央に本流のみに架橋された松川橋  
奥は中央線(西線)庄内川鉄橋

白沢小学校 15 周年記念誌『白沢のながれ』より



昭和 36 年に完成した現在の鉄筋コンクリート  
製の橋(松川橋)を架ける工事中  
旧橋の上流 139 メートルに掛けられた。

(昭和 35 年)

## ⑩ 庄内川橋梁(中央本線) (河口から 23.7Km)

中央線の鉄橋として架設され、明治 33 年 7 月に名古屋－多治見間が開通した。

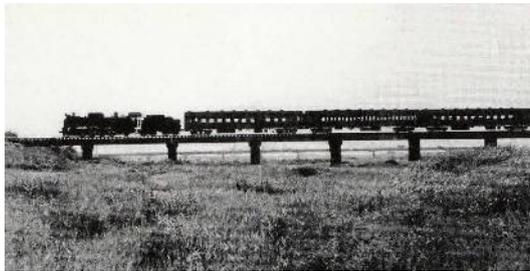
昭和 41 年 5 月 14 日に名古屋－多治見間が複線電化された。



勝川橋上流約 530m 程にある中央線庄内川橋梁 (右岸上流から)  
(令和 2 年)



庄内川橋梁 複線化工事(昭和 40 年)



庄内川橋梁を渡る D5 右岸上流  
後方に見えるのは勝川橋 (昭和 35 年)



現在に残る字西切野の庄内川橋梁跡  
(奥に現在の路線が見える)

(令和元年頃)

## ⑪ 勝川橋(国道 19 号) (河口から 23.2Km)

「勝川の渡し」が廃止後、仮橋などは掛けられていたが、明治 15 年(1882)に庄内川堤防より松丸太を伐採し始めて木造の土橋が架けられた。

明治 33 年(1900)中央線が開通した頃には、欄干付き、橋脚 18、厚い横板敷の橋床で、荷車がすれ違えるゆったりとした構造の木橋が架かっていた。

明治 44 年(1911)下街道が郡の管理下となり大正 8 年(1919)長さ約 160m、幅員 4.5m の木橋に約 4 千 6 百円かけて架け替えられたが、大正 14 年(1925)の大雨で流失したため、昭和初め待望のコンクリート橋が完成している。

老朽化のため昭和 29 年(1954)長さ 300m、幅 7.5m 鋼桁、橋面コンクリートの橋に架け替えられた。

現在の勝川橋は、長さ 301.2m、幅 27.5m(6 車線、歩道付)で平成 3 年に 50 億円で竣工した国道 19 号の立派な永久橋である。



旧勝川橋と建造中の勝川橋 (昭和 29 年)



昭和 29 年架設された勝川橋 (昭和 32 年)  
左に勝川天神社の社叢がみえる。

## 参考資料

名古屋市守山区歴史散歩 守山区を巡る橋  
郷土誌かすがい第 75 号 春日井の橋名が発するもの



平成 3 年に架け替えられた現在の勝川橋 (右岸上流から)  
(令和 2 年)

庄内川に架かる橋メモ

## (4) 治水と水利用

私たちの先人は、川沿いに住み、川の恵みを得ながら、川とともに暮らしてきました。たとえば、川の水を取水するには、水位を上げ取水口より高くしなければならず、そこで川を横断する堰を設けると、川の流れを妨害し大雨の時は大変危険です。

川の猛威と闘いながら、また、川を有効利用しながらの生活は現在まで続いています。

庄内川沿いにある、治水と水利用について、現在でも目にすることができる施設についてみてみます。

- ① 玉野堰堤……………p454
- ② 玉野用水……………p454
- ③ 玉野水力発電所……………p454
- ④ 水位観測所……………p455
- ⑤ 高貝用水……………p455
- ⑥ 上条用水……………p456
- ⑦ くいちがい堤・ヨゲ堤・霞堤 …… p457
- ⑧ 地藏川の分水路工事……………p458
- ⑨ 庄内用水頭首工……………p459
- ⑩ 新川洗堰……………p459
- ⑪ 小里川ダム……………p459
- ⑫ 新木津用水……………p460
- ⑬ 内津川放水路……………p462
- ⑭ その他……………p462

松河戸文化科学探求隊  
隊長 長谷川 浩  
080-3657-7052  
松河戸町の沿革ホームページ  
<http://matsukawado.com/>

### ① 玉野堰堤

定光寺駅から約300メートル程上流に 長さ45メートル、高さ8.78メートルの重力式石張コンクリート造りの堰堤があります。この堰堤は、玉野用水の堰堤として江戸期の文化年間（1804～1818）に竣工し、その後何度も改修され現在の姿になっています。

堰堤には、排砂門や魚道が設けられ、取水された水は玉野用水を経て、玉野水力発電所へと送られています。



向かって左が玉野用水、正面が玉野堰堤 平成30年

### ② 玉野用水

玉野用水は、玉野堰堤から玉野水力発電所まで約2kmのコンクリート造の水路で、玉野水力発電所の導水路を兼ねています。

玉野村の加藤助左衛門らの努力により、享保14年(1729)に工事を開始し文化年間（1804～1818）に完成しました。

村内字宮浦まで開削した用水で村内20余町歩の灌漑に利用されました。

のち、高蔵寺村が水不足からこの用水の延長利用を願い出て、安政5年（1858）に延長されました。

その後、大正10年（1921）に玉野水力発電所が建設され、大改造されて現在のような姿になりました。



玉野用水 昭和60年当時

### ③ 玉野水力発電所

玉野水力発電所は、大正5年玉野用水普通水利組合と玉川水電(株)との間で、玉野用水を利用して水力発電事業を営むための協定が締結され、大正10年（1921）8月に運転を開始しました。

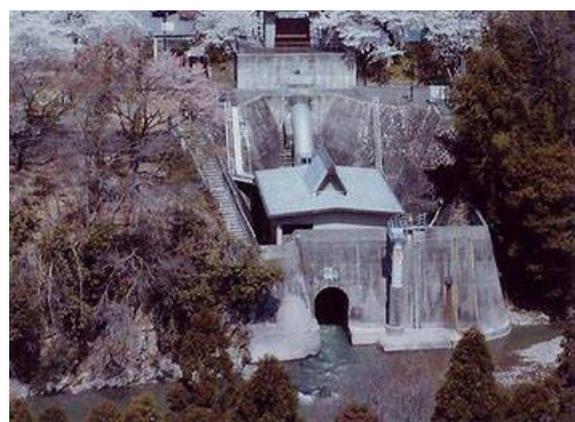
大正10年に愛岐電気興業に合併され、大正11年関西電機(株)に合併され、同年6月社名を東邦電力(株)と改称、東邦電力は昭和17年に中部配電(株)、昭和26には中部電力(株)となり、現在に至っています。

落差16.42メートルで出力500キロワットを発電し、定光寺地区はもとより一時は瀬戸、長久手、日進方面へも送電していました。

現在も玉野町周辺の地域に電力を供給しています。

大都市近郊における水力発電所は近隣にも例がなく、尾張地方では唯一の水力発電所です。

同発電所、玉野堰堤及び玉野用水は、玉野地域の産業と住民生活の近代化に寄与しました。



玉野水力発電所 中部電力 昭和60年当時  
現在も使われて、電気を供給している。

## ④ 水位観測所

国土交通省、庄内川河川事務所の水位観測所が設けられています。

刻々と変わる庄内川の水位情報をインターネット等を通じて常時伝えてくれます。

私たちは、豪雨の時でも居ながらにして庄内川の状況を知ることが出来ます。

また、監視カメラが春日井の範囲内では5か所設置されており、庄内川の状況をカメラを通してみることが出来ます。

名称	住所	対岸
水位観測所	名古屋市守山区大字中志段味字舟場	春日井市大留町
野添川合流点カメラ	名古屋市守山区下志段味天白	春日井市大留町
志段味観測所カメラ	名古屋市守山区志段味真光寺	春日井市神領町
内津川合流部カメラ	愛知県春日井市上条町5丁目	守山区吉根
東名阪下流カメラ	愛知県春日井市松河戸町	守山区川東山
勝川橋上流カメラ	愛知県春日井市勝川町1丁目	守山区幸心

内川河川事務所

## ⑤ 高貝用水

大留村にて庄内川から分水し、牛毛、野田、桜佐、名栗、上条、関田、堀ノ内村に灌漑されました。

始めは、神領村の相生に引込口を設けましたが、関田まで水を引くには大留の大日堂前あたりに堰をつくって水を引く必要があるとのことで、寛文9年(1669)に引込口を上大留村に移し、その受益区域を7か村に広めました。

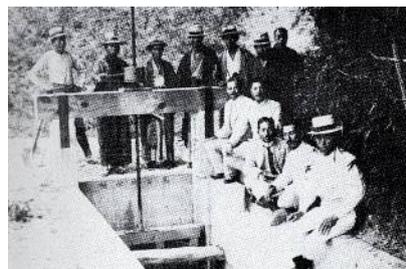
この変更工事の指導者は上条村の庄屋林吉右衛門や関田村の庄屋高貝(加藤)重兵衛などでした。

7つの村の庄屋が集まり協議を重ね、村人たちの難工事の末用水は完成しました。

高貝用水開削功労者の関田村の庄屋重兵衛は、苗字帯刀を許され加藤重兵衛を名乗りました。

高貝用水は、高御堂古墳(堀ノ内町)の後方部墳裾に沿って開削されており、用水の石組みの一部が確認されています。

現在は、用水の一部は暗渠となっているが、今も地域の水田を潤しています。



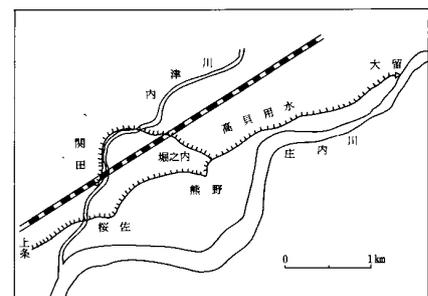
明治44年3月より近代化の工事を行い  
大正元年竣工。総工事費 16,070 円



大留の堰堤



高御堂古墳の後方部墳裾  
高貝用水石組み検出状況



用水経路

## ⑥ 上条用水

『東春日井郡誌』によると、今から約 600 年前  
応永年間（1394～1428）に、地元の郷士林彦右衛門  
重之が開いたのが始まりです。

別名「上条井」とも呼ばれ、当時の灌漑区域は、  
上条、下条、中切、松河戸、勝川の 5 ケ村でした。

寛文元年(1661)の洪水で、元杓と提 294 間が決潰  
したのを機に、杓・樋の改造ならびに水路の位置変  
更をはかり、その後何度か改修工事を施され現在に  
至っています。

文化 12(18015)年の「割符帳」によると用水費は井元の上条を除いて、下条が 2 石 6 斗余、松河戸  
が 4 石 9 斗余、中切が 1 石 4 斗余、勝川が 1 石 2 斗余を負担しています。

現在、用水は、吉根橋より下流 10 メートルのところにある堰(せき)（上条用水取水堰 写真 1）  
で庄内川をせき、右岸堤防下にある樋門（取水元杓樋門 写真 2）から水を取り入れ、用水路はその  
後、庄内川右岸堤防に沿って西流し、五反田橋のところで内津川に合流します。

今度は同橋の下にある堰（上条立切堰 写真 3）によって、せき止められ、内津川右岸に設けられ  
た取水口より再び庄内川の堤防下をくぐり上条町地内の幹線水路へと導かれています。

幹線水路は、下条地区まで続いており、取り入れ口からの全長は、約 3.4 キロメートル、高さ・幅  
はそれぞれ約 2m あります。



上条用水取水堰 左は吉根橋（右岸から）



写真 1 上条用水取水堰



写真 2 取水元杓樋門



写真 3 上条立切堰

### ○ 上条用水取水堰(写真 1)

昭和 23 年、吉根橋上流 13 メートルの位置に当時治水の面からコンクリート堰が設けられまし  
た。

その後、昭和 25～27 年にかけての連年の水害で堰が壊れ、その都度県費でもって応急修理がな  
されたが、昭和 28 年の出水でほとんど全壊したため、昭和 32 年 5 月、現在位置に建設省予算で  
床固(とこがため)工事を行いました。

これは、本来庄内川の治水、吉根橋橋脚の保護が目的でしたが、この機に、その上部に農林省予  
算で現在の用水取水堰が付設されました。

## ○ 取水元杵樋門(写真 2)

昭和 44～45 年、県の庄内川堤防改修工事により、現在地に今の水門が設けられました。しかし、これは将来旧堤防（新堤防の内側に 2・3 年前までであった。）を取り除いた場合に庄内川から取水する樋門として設けられたもので、それまでは、吉根橋上流約 100 メートルの右岸堤防下に昭和 23 年設けられた樋門から取水していました。

昭和 59 年、建設省が旧堤防を取り除く工事を行ったことにより、同時にこの昭和 23 年の樋門は解体され、現在の樋門に変わりました。

## ○ 上条立切堰(写真 3) (竣工 昭和 59 年 位置 内津川五反田橋)

改修以前の立切堰は、手動式の木造であったが、昭和 55・56 年頃の出水で、立切堰とその付近の施設に被害を受けました。

そこで建設省に願い出、58・59 年の継続事業として工事が行われることとなり、現在の電動式立切堰となりました。

## ○ 水神祭

現在、五反田橋の庄内川堤防下用水路わきに水神碑が立っています。これは、昭和 3 年 3 月に建てられたもので、高さ 1.5 メートル、横 0.5 メートルの石碑です。

水神祭は、毎年 5 月上旬に現地で神主、役員等が集まり、用水期間中の通水の無事と五穀豊穡を祈願して行われています。

桜佐も、洪水による被害が多かったところで、松河戸と同様に、くいちがい堤防、自動水門、ヨゲ堤などが造られ、また、水屋、流し松などの工夫もされていました。



五反田橋の水神碑



春日井市桜佐町の庄内川堤防下に祀られていた「水神様」現在は、八竜神社に祀られている。

【参照(p139) 3暮らしと川 (2)治水対策 ③上条用水】

郷土誌かすがい第 30 号 上条用水

## ⑦ くいちがい堤防、ヨゲ堤、霞堤

江戸時代の松河戸村絵図には東と西に堤防の切れ目(くいちがい堤防)があり、そこを排水路が流れていました。

この水路の水門は片開きの大きな板戸で、通常は排水のため三分の一程が開放されていました。

庄内川の水位が上昇すると、水圧によって水門が閉じ、集落や田畑を守るようになっていました

この、灌漑用水(かんがい用水)を取るために堤防に作った坎(入り)のことを河戸といいます。

今もその当時の場所に排水樋管施設として使われています。

隣の中切町にも同様なくいちがい堤防がみられます。

また、集落の東側を北北西の方向に、集落を囲む形で庄内川の堤防から「ヨゲ堤」が伸びていました。

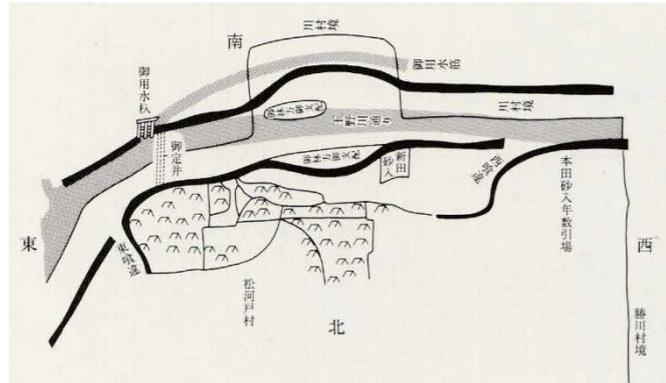


▲平成 8 年頃 くいちがい堤防 余所の地区では見られませんが中切に 1ヶ所、松河戸は東西に 1ヶ所ずつあった。ここには大きな排水門があり、庄内川の水が増えると自動で門が閉り水は入らない。庄内川の水が引くと自動で門が開き部落内の水が流れでる。

上流地域よりの大水を防ぐため、庄内川堤防から河川敷の反対側の中切境に高さ3~4メートル位の堤防が造られていました。

なお、西の堤は「ヨゲ堤」というよりは「霞堤」で、集落に流れ込んだ水を排水する役目がありました。

これらの工夫は、川沿いの多くの村でもみられ、上流の桜佐でも同様なものが見られました。



松河戸村絵図 原図は p155



松河戸の東側のヨゲ堤 昭和55年頃



中切のくいちがい堤防 (令和3年撮影)



霞堤(かすみでい)跡地の看板 桜佐 (令和4年3月撮影)

内津川が庄内川に合流する辺りの内津川の左岸の堤防に立てられた案内看板

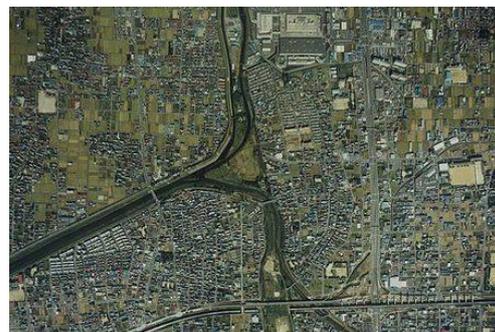
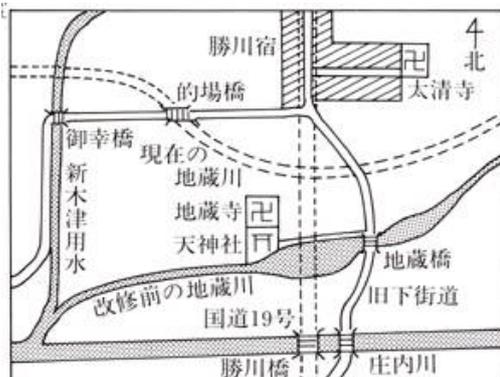
【参照(p136) 3暮らしと川 (2)治水対策 ②ヨゲ堤などの工夫】

### ⑧ 地藏川(巾川)の分水路工事

地藏川の川底は低いので、河道は全区間にわたり堀込み河道形態になっています。

かつては庄内川に繋がっていたのですが、川底が低く庄内川が増水すると逆流して氾濫がたびたび起こっており、昭和32年の大雨では勝川、長塚町辺りが冠水しました。

そこで昭和33年に地藏川の改修工事が行われ、庄内川へ流れている水を新川へ流れるようにしました。



合瀬川と地藏川の合流点

この合流点から西へ流れる川が、新川となる。

国土交通省 国土画像情報 (昭和62年)に撮影

### ⑨ 庄内用水頭首工

水分橋の上流に頭首工があります。

頭首工とは川の水位を塞ぎ上げて用水に取水するための施設のことで、名古屋市内ではここにしかない珍しい施設です。

昭和 29 年に頭首工の完成により安定した取水ができるようになり、大雨の時にはゲートを開放することで安全に洪水を流すことができるようになりました。



水分橋上から名古屋方面撮影

### ⑩ 新川洗堰(しんかわあらいぜき)

新川は人工河川で、それまで庄内川に流れ込んでいた複数の川の水を名古屋西部(名古屋城)からそらし、増水時には、新川洗堰を通じて庄内川の水を迂回させる目的で作られました。

これにより、上流に位置する松河戸も下流の流れがよくなったことで水害も減ったと言われています。

明治時代の改修を経て長らく利用されていましたが、平成 12 年(2000) 9 月 11 日、1 時間 93mm、11 日未明から 12 日までの総雨量 567mm という記録的な豪雨(東海豪雨)により、計画高水位を上回って洗堰から越流した洪水によって新川で破堤し、越流が続いたこともあり流域の広範囲が浸水被害を受けました。



平成 12 年の東海豪雨 河川事務所

将来的に新川と庄内川の河川整備が進めば締め切られることになっているそうです。

【参照(p140) 3 暮らしと川 (2)治水対策 ①荒川洗堰】

### ⑪ 小里川ダム(おりがわダム)

小里川ダムは、岐阜県瑞浪市と恵那市にまたがる小里川にあります。

小里川は天瀑山(標高 777m)を水源とする庄内川の支流の一つで、大正時代より 3 箇所の水力発電所が設置されていました。

小里川は氾濫が多く、被害を防ぐためにダムが計画されましたが、都市河川化した庄内川流域(名古屋市、瀬戸市、春日井市、多治見市、土岐市など)の浸水被害を防ぐためにも、(昭和 54 年)に着工して、平成 16 年(2004) 3 月 31 日に竣工しました。

小里川ダムは、洪水調節を行い、河川環境の保全などのための流量の確保を図り、発電を行うことを目的とした複合ダムです。



小里川ダム 平成20年撮影 河川事務所

## (4) 治水と水利用

## ⑫ 新木津用水

江戸時代初めの頃の春日井の西半分ほどは、春日井原と呼ばれる広い荒野になっていました。

朝宮では、和爾清水と呼ばれる泉があり、人々はこの湧き水を利用してわずかな水田を開いていた。

このような土地柄の田楽村(朝宮の北)に住み着いた鈴木作右衛門らの開拓者によって高い場所である入鹿村に溜池(入鹿池)をつくり、水を引く計画が立てられ、寛永10年(1633)に「入鹿用水」が完成し、春日井でも田楽、大手、東野などが受益を受けることとなりました。

ところが、入鹿用水によって新田開発が進むと、この用水だけでは水が不足するようになり、木曽川から直接水を引く「木津用水」が1650年につくられ、さらに寛文4年(1664)「新木津用水」が造られました。

これは木津用水の水を丹羽郡の小口村から取り入れ、田楽村を経て朝宮で八田川に合流し、庄内川へぬける全長約15キロの用水でした。

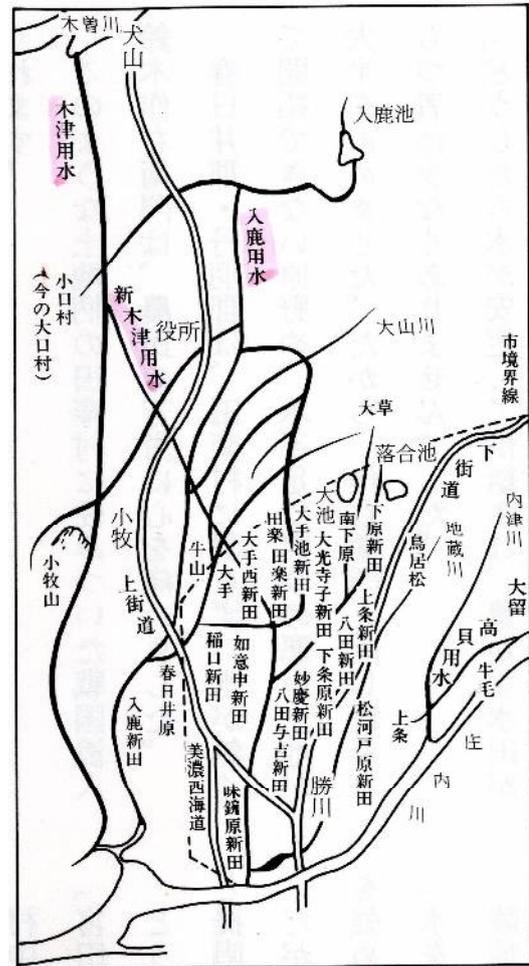
これにより、田楽村、牛山村、大手村などの田畑が更に開拓され、上条新田、八田新田、稲口新田、勝川村、味鏡新田などの新田開発が進みました。

寛文年間の頃には、味鏡原に各地から入居者が増え、美濃の可児郡や各務郡の人々が入植した(美濃町)、知多郡の人々が入植した(知多町)、海部郡の人々が入植した(味美西本町)、海部郡花長村の人々が入植した(花長町)と、四つの集落が出来ました。

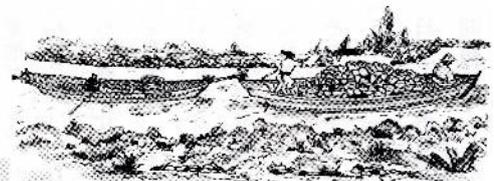
味鏡原新田は、寛文年間以降も開拓が進み、上街道沿い移り住む人も増え、天明4年(1783)味鏡原新田は、味鏡村から独立しました。

しかし、上流地域における新田開発の拡大により、味鏡原新田のような下流の地域は、新田に水が十分に取入れなくなっていくます。

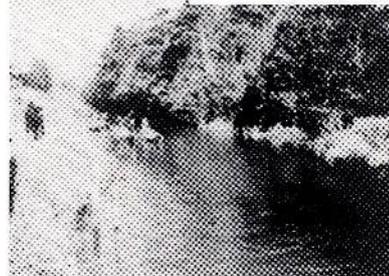
明治の新木津用水改修事業を待つまで、畑作中心の農業が続きました。



近世の新田村と用水路  
(『木津用水史』より作成)



石積舟の川下り風景



(昭和12年撮影)

明治2年に下流の村々から用水を改修して、もっと土地を開墾しようという声があがりましたが、費用が掛かりすぎて進みませんでした。明治10年「愛知県布達」に庄内川分水工事の掲示がされました。

その一つに木曾川から名古屋へ船を通すため、犬山から新木津用水の幅を広げ、庄内川から堀川につながる水路を造ることとなり、それが契機となって当時の県土木課長黒川<sup>はるよし</sup>治愿氏らで、多くの難題を解決しながら、明治17年に八田川合流点までの改修工事が完成、その後八田川の改修工事、各村々までの小用水の工事を行い、豊かな水が春日井原を潤すこととなりました。

明治22年の村名改正で味鏡原新田の「味」の字と、美田が広がったことを念頭に「美」をとって「味美村」とされたとのことです。

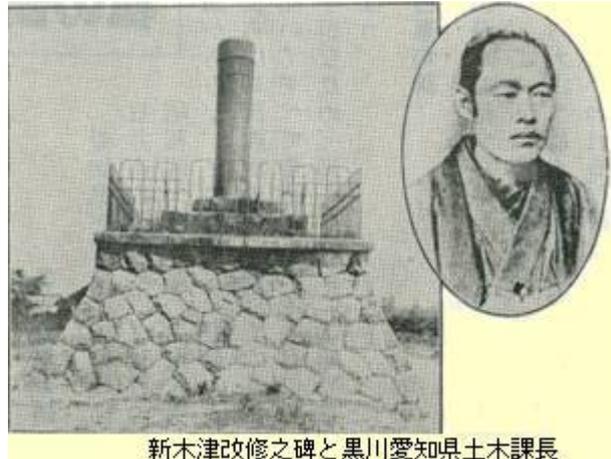
また庄内川と堀川をつなぐ運河に彼の名をとり「黒川」の名が残されました。

これにより犬山から名古屋へ、丸石、材木、炭、氷、天然水などを運ぶ水運も開け、かつて7日間かかっていた水程は、わずか4時間に短縮されました。

下りは流れに任せましたが、帰りは船を5~6隻つなぎ、船頭が両岸から綱で引っ張ったとのことです。しかし、この水運も、陸上交通の発達におされ衰退していきました。

愛船株式会社が明治19年9月から大正13年まで営業、営業期間は灌漑用期(6月11日~9月20日)を除いた250日間だった。

大正13年(1924)愛船株式会社し38年間にわたる営業を閉じたが、その後も昭和12年まで数人の船頭で丸石その他の運搬をしていた。



新木津改修之碑と黒川愛知県土木課長

工事完成の明治19年9月25日、八田川合流点に近い、朝宮立切の上方、高上の地に新木津用水改修の碑が立てられた。

#### 入鹿切れ (旧暦1868年5月13日、現在の6月22日)

完成より235年、それまで一度も大きな災害を起こさなかった入鹿池も、明治元年(慶応4年、1868年)4月終わり頃からの大雨には耐えられなかった。

5月13日の七ツ(午前2時ごろ)に百間堤が決壊し、入鹿池一杯に貯まった水は下流に溢れ、多大な被害を出した。これを明治元年の「入鹿切れ」と呼ぶ。

被害については幾つかの記録があるが、楽田村の鈴木三郎正久家による「入鹿池堤防決潰」によれば浸水は丹羽・中島、春日井、海部の4郡に及んだといい、犬山市の興禅寺には、境内に流れて来た15トンの「入鹿切れ流れ石」が祀られている。

記された被害は以下の通りである

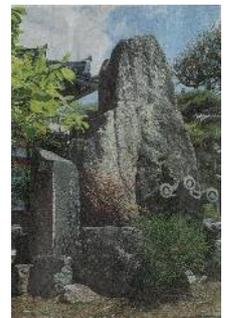
死者 - 941人

負傷者 - 1,471人

被害にあった町村 - 133町村

建物への被害 - 流失家屋807戸、浸水家屋11,709戸

流失耕地 - 8,480町5段歩



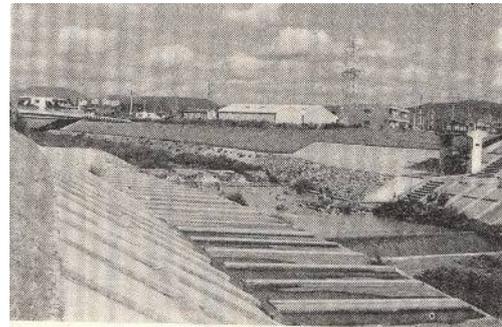
興禅寺に残る「入鹿切れ流れ石」

## ⑬ 内津川放水路

市の東部地区を南北に流れている内津川は、25Km<sup>2</sup>の流域を持ち、その流域に高蔵寺ニュータウンをはじめとした大小の宅地開発が、昭和40年以降急速に進んだことから、大水時には排水能力にしばしば限界が生じるようになりました。

この内津川を、平常時は従来どおり通水し、大水には出川町で分流させ、新設の放水路へ水を処理する内津川放水路整備事業が昭和55年から着手されました。

この工事は、出川中部、大留の両特定土地区画整理事業時に行われ、放水路は延長1.8Km、平均幅員55mの規模で約10.2畝の用地を要し、放水路によって集落が東西に分断されることから、両地区に13橋が架橋されました。



内津川放水路

## ⑭ その他

## ○ 中央線橋梁下流下の床止め



複線化前の橋梁跡（写真令和4年3月）  
左に見える現在の中央線橋梁下流下の床止めに利用  
中央線橋梁下の床土が流出しないようにするためのもの

## ○ 中切の堰てい



中切の堰堤（写真令和4年3月）

## (5) その他の名所

庄内川沿いには、前項目以外にも多くの名所があります。主なものをあげてみました。

- ① 愛岐トンネル群 .....p464
  - 3号トンネル(登録有形文化財)
  - 4号トンネル(登録有形文化財)
  - 殉職者慰霊碑
  - 旧中央線笠石洞暗渠 (登録有形文化財)
- ② 玉野古道.....p467
- ③ 玉野川溪谷.....p467
- ④ 定光寺駅.....p469
- ⑤ 密蔵院.....p469
- ⑥ 大留城.....p470
- ⑦ 上条城.....p470
- ⑧ 吉田城.....p471
- ⑨ たたらが淵 .....p471
- ⑩ 観音寺.....p472
- ⑪ 小野社.....p472
- ⑫ 十五の森.....p472
- ⑬ 名古屋上水道と尾張広域緑道 ..... p472

松河戸文化科学探求隊  
 隊長 長谷川 浩  
 080-3657-7052  
 松河戸町の沿革ホームページ  
<http://matsukawado.com/>

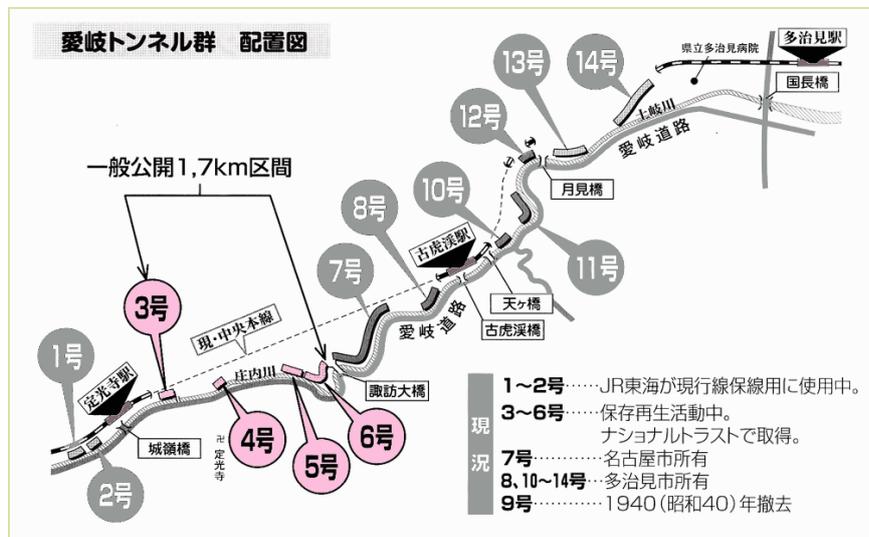
① 愛岐トンネル群

旧中央線(現 JR 東海・中央線)は、明治 25 年(1892)6 月 21 日制定の鉄道敷設法に基づいて建設された名古屋と美濃・信州を結ぶ路線で、名古屋～多治見間は明治 29 年(1896)に着工され、明治 33 年(1900)に開業しました。

廃線区間は、昭和 41 年(1966)の電化複線化と長大トンネルによる新線工事完成で放棄された約 8 キロで、明治期に造られた 13 の赤れんがトンネルが庄内川沿いに残り、明治 33 年(1900)の中央線開通当時(名古屋～多治見間が開通)の面影を残しています。

廃線路は茂った藪の中に埋もれ、人々の記憶から忘れ去られていましたが、平成 17 年(2005)勝川駅の高架化改修工事が行われ、明治の赤れんがプラットホームが撤去された時に、地元の古老のかすかな記憶を頼りに、トンネルの探索が始まって今のトンネル群にたどり着きました。

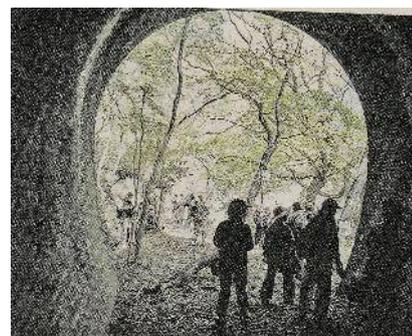
その後、経済産業省「近代化産業遺産」に認定されるなど注目を浴びることとなり、旧中央線玉野第三隧道(3号トンネル)、旧中央線玉野第四隧道(4号トンネル)、旧中央線笠石洞暗渠の3基が、平成 28 年(2016)11 月に春日井市では初めて国の登録有形文化財になりました。



複線電化前		後	
トンネル	長さ	長さ	
1号	104	265	
2号	80	121	
3号	76	愛岐 2910	
4号	75		
5号	99		
6号	333		
7号	607		
8号	202		
9号	撤去		
10号	91		諏訪
11号	296		802
12号	87	原	
13号	262	223	
14号	385	池田町	
		1332	



県下最大級の巨木三四五の大モミジ



6号トンネル

高蔵寺ー多治見間は、庄内川沿いに建設されましたが、昭和41年(1966)、名古屋ー多治見間の複線電化により、新線に切り替わった定光寺ー古虎溪間は廃線となりました。

現在は特定非営利活動法人愛岐トンネル群保存再生委員会が管理しています。

今は定光寺駅から古虎溪駅までと、古虎溪駅から多治見駅までの3つの大トンネルで結ばれていますが、当時は定光寺駅付近から古虎溪駅まで8つ、多治見駅まで5つのトンネルがありました。

春日井市側には6つのトンネルがあり4つのトンネルが数日間限定で春秋などに公開されており、玉野古道沿いに6号トンネルまで行くことができます。



5号トンネルに入るSL

### ○3号トンネル

3号トンネルは、定光寺駅から多治見方面へ約400mの地点にあります。

断面形状は、明治31年(1898)8月10日付け「隧道定規」で標準断面に定められた明治期の鉄道トンネルの標準的形態(単線の非電化区間を中心に多用)が用いられ、馬蹄形で築造されています。

内部には待避所、側壁に腕木信号操作ワイヤー掛け金具が残り、道床には最大で約90cmの残土が盛られており、坑門及び内壁に補修の跡が見られず、建設時の原形を保っています。

旧中央線玉野第三隧道(たまのだいさんずい)は、平成28年(2016)11月に登録有形文化財になりました。



3号トンネル西坑門正面外観(公開前整備中)

### ○4号トンネル

4号トンネルは、定光寺駅から多治見方面へ約800m、第三トンネルから約400mの地点にあります。

直線状のトンネルで、断面形状は、第三隧道と同じように「隧道定規」馬蹄形で築造されています。

煉瓦造の坑門は壁柱(坑門の強度を上げるための柱で装飾的な役割も大きい)、笠石(最上部を飾り、装飾的な役割や水切りなどの役目がある)などを備えた官設鉄道用隧道の特徴を示して



4号トンネル東坑門正面外観(公開前整備中)

います。

西坑門上部には煉瓦造擁壁が設けられ、東坑門上部にはレールを再利用した落石防護柵が、山側方面はコンクリート造の擁壁やその上部にレール再利用の落石防護柵が施されています。

旧中央線玉野第四隧道(だいよんずいどう)は、平成 28 年(2016)11 月に登録有形文化財になりました。

#### ○殉職者慰霊碑(旧玉野 1.2 号トンネルの間)

玉野から多治見間は難工事でした。地峡部では断崖絶壁でトンネル 14 を貫いてようやく多治見盆地に出ました。

5 号、6 号トンネルは特に難工事で崩落事故などで多くの犠牲者が出ました。

そこで地元の人たちにより慰霊碑が建立されています。

明治 29 年 11 月着工、明治 33 年 7 月開通、わずか 10 キロの間に 14 のトンネルを掘る難工事であったそうです。

5 号トンネルは高さ 7m の巨岩が崩れ落ち 6 名の犠牲者が、6 号トンネル工事では大雨で西坑門の外の切り取り箇所が崩れる事故が起きました。

1 号、2 号トンネル間には、愛岐トンネル工事で亡くなられた 20 余名のかたの慰霊碑があります。

また、この碑の右には東海自然歩道の入り口があり、ここを上がっていくと、上には、玉野園地がありますが、その手前に定光寺ロックガーデンといって、クライミング愛好家の絶好な練習場となっています。



殉職者慰霊碑

#### ○旧中央線笠石洞暗渠<sup>あんきょ</sup>

笠石洞暗渠は、中央線建設に伴い建造され、定光寺駅から多治見方面へ約 1,100m、第四隧道から約 300m の地点にあります。

煉瓦造アーチ構造の暗渠と煉瓦造立坑からなり、線路の盛土で築堤した際に、沢の水を通すために設けられました。

昭和 32 年(1957)の集中豪雨により土砂で沢が埋まり、暗渠も埋没しましたが、復旧工事では内部の土砂を取り除き、煉瓦造立坑の上部をコンクリート造で継ぎ足して、煉瓦造暗渠と立坑を復活させました。

立坑下部及び暗渠は、建設時の原形を保ち、コンクリート造の立坑上部は、昭和 32 年当時の鉄道施設災害復旧の技術水準を表しています。

旧中央線笠石洞暗渠(かさいしほらあんきょ)は、平成 28 年(2016)11 月に登録有形文化財になりました。



笠石洞暗渠 集水路立坑内

## ② 玉野古道

多治見から名古屋への街道として、江戸・明治期、内津峠を越える以外に名古屋への道がない多治見の人達の悲願は、平坦な道の確保でした。

この夢を明治28年(1895)玉野街道として開通し、人馬の他、荷車なども通行可能な有料道路でした。

しかし、道路開通翌年の明治29年(1896)年に、中央線の敷設工事が始まると街道は所々で寸断され、たった1年だけの幻の街道になりました。

愛岐トンネル群保存再生委員会では玉野古道の整備を進めており、現在6号トンネルまで(岐阜県境まで)行けます。

近い将来、玉野古道とトンネル(7号と8号)を併用し、古虎溪駅まで散策を楽しめる「フットパス」を考えているそうです。楽しみです。

整備が進められている玉野古道沿いには、4号トンネルの岐阜県側出口にある紅葉は「三四五の大モミジ」と呼ばれる胴回り2メートル前後の幹3本が根元から枝分かれした県内最大級の巨木があります。

また5号トンネルを抜けると右側に河原へ降りる道があります。

10分ほど降りると川が大きく曲がっており、そこには「ピクニック河原」と呼ばれる広い河原がありますが、この先が県境で現在はここまでしか行きません。

その他に、「レンガ広場」、「水車広場」など昔を懐かしく思える設備が整えられています。

郷土史かすがい第76号 登録有形文化財の紹介



随所に残る玉野街道  
土留は谷積の石垣



通行道銭の高札

## ③ 玉野川溪谷

玉野川溪谷は、愛知高原国定公園の西端に位置し、濃尾平野と東濃を隔てる山岳地帯への入口にあります。

豊かな里山の自然を残す庄内川のV字溪谷は、大都市近郊と思えない雄大な景観を楽しませてくれます。

上流の「古虎溪」から鹿乗橋付近までは大きな岩が突き出しています。

定光寺城嶺橋付近は奇怪な岩とそそり立つ溪谷を見ることが出来ます。

山紫水明の豊かな自然に周りを囲まれた山間に、春の桜、秋の紅葉など四季折々の草花の彩りの移り変わりを感ずることが出来ます。

昭和50年頃までは「名古屋の奥座敷」として多くの観光客が訪れ、駅の下には食堂や旅館、土産物屋などがあってにぎわいましたが、モーターレーゼーションの波が起こると遠くに行く人が多くなり寂しくなりました。



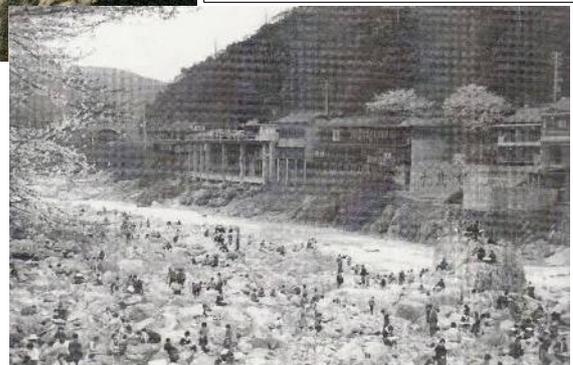
左、昭和初期の絵ハガキ

下、昭和36年頃 城嶺橋下流の河原

桜の季節に、奇岩が続く川原に下りて、水音を聞き、川風を感じながらみんなで食べる弁当は格別である。

今は、すでない千歳楼がみえる。

春日井市広報広聴課



名古屋近辺に住む高齢者の方は、小学校などの遠足で定光寺を訪れた方が多いようです。

もちろん、観光バスのない時代のことで、中央線のSLに乗って定光寺駅で降り、河原で遊んでお弁当を食べ、定光寺にお参りしました。

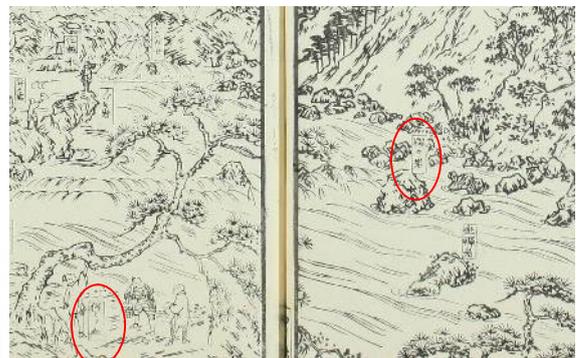
時は移り、駅は無人となり、駅前銀座？は寂れ、大型ホテルは廃墟となりました。しかし、時代の移り変わりを眺めてきた玉野川溪谷には、今も変わらずそこに川が流れています。



出典 尾張名所図会 玉野川溪谷

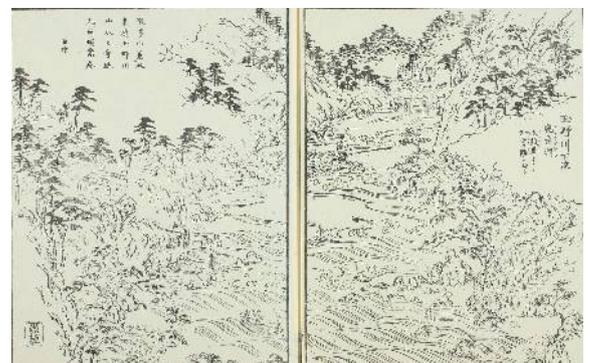
現在の玉野橋辺りから、上流の城嶺橋方面をみる

拡大図



猩々血

猩々岩



出典 尾張名所図会 玉野川下流 鹿乗淵

「春日井むかし話」から 春日井市

### 猩々岩

—外之原町・玉野町・高蔵寺町—

むかし、外之原町の川平山には、天狗がすんでいました。そして、庄内川をさんだ向こう側、定光寺（瀬戸市）の山には、猩々というものがすんでいました。

猩々は、体は赤毛で猿か犬、顔は人のようで、大きくて力が強く、いつも威張っていました。

ある日、手下のキツネがいました。「うちの山と天狗の山は、どっちが眺めがいいんだらう。天狗はわしの山というが。」

猩々は、すぐに天狗に勝負をいどみま

した。

「天狗どの、うちの山からは、伊勢から二河の海までが丸見えですぞ。」

天狗も負けてはいられません。

「お前んどこが邪魔しとるで見えんだけじゃ、どいてくれたら見えるわ。」

「アホ天狗。どけるわけないだろ。お前んどこが動きやええ。うちは伊吹山も見えるぞ。冬の白い伊吹が朝日に輝くさまは本当にきれいだぞ。」

「猩々め、その分伊吹山から吹いてくる超冷たい風がまともだわな。寒寒！」

天狗は背を丸め手をこすり、続けます。

「風といやあ、お前んどこは大風がまともでさんざんだわな。右往左往の大騒動だわな。それに比べてうちは安心だわ。

高いびきで寝とれるわ。」

「なにを偉そに。うちのおかげだがや。」

「くやしけりや、山どけてみろ。」

ああいえばこういう。ついにどっちが強いか腕比べをすることになりました。

「神様の前で、正々堂々とな。」

「それなら、庄内川の鹿乗が溜がええ。」

次の日、腕力自慢の猩々は早々とやってきましたが、天狗が来ません。

（あのヤセ天狗め、恐くなったな）

すると、どこからともなく天狗があらわれきました。猩々はさすが飛びかかりましたが、天狗は岩から岩へと身をかわします。

「逃げるか！ 天狗！」

猩々が天狗をつかまえたと思ったその瞬間、天狗がうらわで「あおぎ。すると猩々は宙高く舞い上がり、ドスン。



「ギャー！」  
猩々は血を流し、岩から岩へ跳びはねながら、定光寺の山に一目散。その時、血で染まった岩は「猩々岩」といわれています。

## ④ 定光寺駅

大正8年5月玉野信号所が設けられました。

名古屋開府300年記念として架設された城嶺橋の完成とともに有志や地元民の要望もあり、大正9年8月仮停車場となり、その後昇格請願運動が続けられ、勝川駅、高蔵寺駅に次いで、大正13年(1924)に春日井市3番目の常設駅となりました。

玉野川(庄内川)の溪谷右岸に立地し、川沿いの崖にへばり付くような秘境の趣ある駅です。

名古屋の通勤圏に属しているため、1時間に上下各5~7本程度の列車が往来し、なおかつ車でアクセスも容易です。

なお、駅の所在地は春日井市ですが、川を挟んだ対岸は瀬戸市であり、駅名の由来となった定光寺も瀬戸市側にあり、多くが瀬戸側の利用客です。

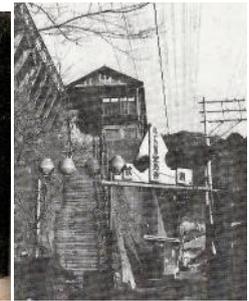
現在は無人駅で、一日乗車人数150人程です。



城嶺橋から見た定光寺 昭和31年



定光寺駅前 昭和40年頃



定光寺駅  
昭和41年春日井市  
長い階段を上って駅へ

## ⑤ 密蔵院

密蔵院は、鎌倉時代の嘉暦3年(1328)に慈妙上人によって開山された天台宗のお寺で、戦国時代末期に衰退したものの、寺運盛んな時代には全国に700余りの末寺を有し、



密蔵院多宝塔

寺域には 塔頭三十六坊、3千

人を超える修行学侶がいたといひます。

現在、往時の隆盛を偲ばせる建物としては、室町時代初期に建立された多宝塔があり、重要文化財に指定されています。

多宝塔は天台密教系の寺院に多い建造物ですがこれは禅宗の様式を取り入れた珍しいものです。

国指定重要文化財である木造薬師如来立像をはじめ、指定文化財は29件にもおよびます。



密蔵院本堂



密蔵院 尾張名所図会

絵図 対岸の吉根の高みから全景を遠望した図であり、多宝塔の九輪がひとときわ高くそびえている。

庄内川の堤防を下ってすぐのところには総門がある。右手に常林坊、その東に野田村の家並が12棟ほど描かれている。多宝塔、拜殿、本堂、庫裡、書院、鐘楼、宝蔵の伽藍とともに吉祥坊、善明坊、福泉坊などの塔頭がみえる。

中世の最盛期には39坊、末寺は700余を数えたという。ここは葉上流の中核で僧侶に位を授与する寺で、灌頂堂がこの中心施設である。

江戸時代には野田村、田幡村(名古屋市北区)の137石余が密蔵院の領地として認められていたので、將軍の代替わりには朱印状を受けるため、住職が江戸まで出向いていた。

郷土史かすがい第66号 春日井をとる街道から

## ⑥ 大留城

大留町7丁目の大留橋より上流の子安神明社一帯の地にある。

天分15年(1546)将軍足利義輝の配下村瀬氏が領地に築城し、篠木荘一帯の領主として勢力があった。

天正12年の小牧長久手の戦い時に村瀬作左衛門は篠木、柏井の地侍達と秀吉方の池田恒興軍に参加し、軍を率いて大日渡しより渡河したが、長久手で戦いに敗れて討ち死にし廃城となった。

城域は、南は庄内川に臨み、東は井高谷、西は相模堀、北に堀の松本村より幅6尺長さ650間の用水を設けていた。

この用水は軍事的なものではなく、農業経営者としての村瀬氏の一面をみる事が出来るものである。

現在、子安神明社東側及び本殿裏側に堀の遺構がみとめられる。



子安神明社一帯の地にある大留城跡

郷土史かすがい第6号 戦国の土豪と中世の城館

## ⑦ 上条城

JR春日井駅南口の西南300mの上条町(二丁目)の老樹が生茂った平地にある。

建保6年(1218)小坂孫九郎光善が佐渡より当地に来て上条城を築城し、一旦近江の国に移り住んだが、その後8世林重之の代にこの地に戻り名字を小坂から林に改姓した。

林家は応永年間(1394~1428)に林重之が上条用水を切り開くなど、代々地元の農業の振興に努めたといわれている。

13世林盛重が上条城の領地を信長に献上し帰農し、城主がいなくなった。

天文23年(1554年)の清洲攻めの際に、当時の吉田城主であった小坂久蔵正氏が清洲城で討死し、世継ぎがいなかったので信長は久蔵の妹の子である前野孫九郎に跡を継がせ、小坂を名乗らせ小坂孫九郎吉宗(雄吉)となり吉田城と上条城も任せられた。

天正12年(1584)、小牧・長久手の戦いで、池田恒興が三河攻撃の足掛かりとして、この城に一時(2日間)入城したと伝えられる。

その際、上条城主小坂孫九郎は出陣し留守で、林盛重の息子14世林重登は道案内をしている。

長久手の戦いの敗戦後、秀吉は自ら兵を率いて龍泉寺の帰りに当館に来て逗留した。

その後秀吉はこの時の賞として重登を小牧街道57カ村の総代名主とした。

羽柴秀吉が休戦と引き換えに吉田城や上条城、小牧にある諸城を取り壊すことを命じたため廃城になり戦いは終結した

天正14年(1586)上条城が廃城になり、天守を始めとした城の建造物は壊されたが、林重登が上条城跡に新たに屋敷を構えた。

林家はこの地で、重登から地租改正で尽力した林金兵衛まで15代に渡って庄屋などを務めた。

城域は東西150m、南北180m、堀、土塁を巡らしたものであった。

現在は、一見して城跡とわかる状態ではないが長屋門が目印となる。



上条城跡の脇にある林家屋敷跡の碑  
後方に土塁と石垣がみえる。

## ⑧ 吉田城

王子製紙の正門南の下条公園(下条町三丁目)の一角に吉田城跡の石碑が一つ建てられている。

明応4年(1495)小坂孫四郎吉政が奉行所として館を建て、そのうちに土塁や堀を築くようになって建物も立派になってきたので吉田城と名乗るようになった。

天文23年(1554年)の清洲攻めの際に当時の城主であった小坂久蔵正氏が清洲城で討死した。

小坂久蔵正氏には子がなく、織田信長は小坂久蔵正氏と遠い親戚であった孫九郎雄吉に跡を継がせ、永禄元年(1558)小坂氏を襲名し吉田城と上条城の城主になった。

小牧・長久手の戦いの際に羽柴秀吉が休戦と引き換えに吉田城や上条城、小牧にある諸城を取り壊すことを命じたため天正14年(1586)廃城になり戦いは終結した。

小坂孫九郎雄吉は、天正18年(1590年)に織田信雄が豊臣秀吉により改易された後は尾張丹羽郡前野村に蟄居している。

現在は本丸があった下条公園に石碑が一つ建てられているだけである。

公園を整備している時に3つの大きな基礎石が発掘されており、現在は小野小学校と下条八幡社に置かれている。

小野小学校の石は戦時中忠魂碑の台石となっていた。



下条公園にある石碑

小野小学校にある基礎石



下条村の村絵図には、同村本郷島に吉田城址があったことが記されている

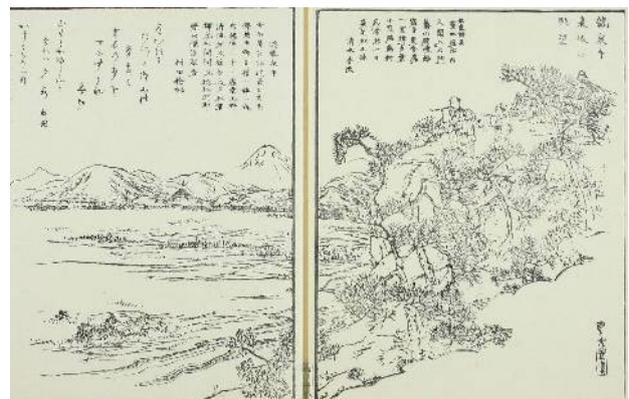
## ⑨ たたらが淵

上条、下津と龍泉寺の境の庄内川は、古来「たたらが淵」といって青黒く深淵をなしていた。

たたらがの語源は製鉄と関連があるらしく、守山区側に金屋坊(たたらがの守護神を金屋子神という)という地名がある。

地龍泉寺へ渡るのに、たたらが淵の舟の中とか、龍泉寺へ渡ってからとかで、幾多の不思議な事件にまきこまれたという話も伝わっている。

松川橋のあたりから竜泉寺崖下までの庄内川は、今でこそ宅地や墓地で緑がけずりとられてはいるが、かつては深いよどみをもった山紫水明の地で、しかも広い河原もあり、名古屋城下の人士にとっては魚釣りに水遊びにと清遊の地でもあった。



龍泉寺山から眼下の庄内川たたらが淵を望む  
尾張名所図会から

## ⑩ 観音寺

曹洞宗のお寺、

小野道風、十五の森に関係したものが多く保管されている。

【参照 (p218) 8 松河戸の神社仏閣 (2)観音寺】

【参照 (p344) 15 史跡、遺跡、石碑 (3)観音寺内にあるもの】



## ⑪ 小野社(道風屋敷跡)

県の指定文化財史跡(昭和 29 年 3 月指定)

明治末まで八幡社の境内で境内社として小野社があった。

大正元年に白山社に合祀されたが、戦後昭和 21 年にもとあった屋敷跡に小野社を復帰して小野道風公を祭った。

現在の社殿は戦前の小野小学校の御真影の奉安殿を移築したものである。

【参照 (p287) 11 小野道風伝説】

## ⑫ 十五の森

市の史跡(昭和 37 年 11 月指定)

今をさる約 530 年前 明応年間に造られた塚の跡で、愛知電機の駐車場の中にある。

占師の言を聞いて 15 歳の娘を人柱として埋めたところで、その後洪水はなくなったと言う。

【参照 (P311) 12 十五の森の悲話】

## ⑬ 名古屋上水道と尾張広域緑道

ここは、名古屋市民の生命の水である名古屋市上水道が通っている。

名古屋までの 19.5Km という大水路は、明治 43 年(1910)着工し、大正 3 年(1914)に完成し、木曾川の犬山城直下のトンネルの脇(水道の取り入れ口)には、昭和 39 年(1964)に通水 50 年を記念して「水道の碑」が建てられた。

戦前、鳥居松陸軍工廠建設場所に松河戸も候補にあがったが、この名古屋市上水道が通っていたことから上条に決まったという。



庄内川堤防下に立てられている看板

この上(尾張広域緑道)は、松河戸の水田を南北に貫く広い道で、「水道みち」とよんで農作業道として利用していたが、「昭和天皇在位 60 年記念事業」の一環として尾張広域緑道として整備が進められた。

庄内川畔(春日井市松河戸町)から木曾川畔(犬山市)までを結ぶ約 19.5 キロメートルに渡って整備されており、中間地点の小牧市には「フレッシュパーク」という名前のスポーツ関連の施設がある。

なお、この施設はいわゆる"大規模自転車道"には該当せず、所管する愛知県では「公園」と位置づけている。

## (6) 庄内川の自然を探訪 (カヌーで川下り)

庄内川は岐阜県恵那市の夕立山(標高 727m)を水源として、春日井市内でも幾つもの支流と合流して伊勢湾に注ぐ延長 96Km の川です。

春日井市の境界を流れている距離は、実に総延長の約 20%にあたる 19.3Km です。

春日井市の文化を育んだこの川の自然を感じるために、川下りを実行しました。

- ① 川下り.....p474
  - ア 事前準備
  - イ さて出発!
  - ウ 乗り場を探す
  - エ カヌーに乗る
  - オ カヌーで出発
  - カ 一旦降りる
  - キ 再度出発!
  - ク 地層・岩石
  - ケ 再度乗り場を探す
  - コ 再度カヌーで出発!
  - サ 玉野川溪谷を過ぎ松河戸へ
- ② 河原の礫について.....p481
- ③ 堰堤について.....p483
- ④ 川の水質について.....p483
- ⑤ 川でみかけた生物について.....p484
- ⑥ 河原の利用について.....p485
- ⑦ 約 20 キロのリバーツーリングを終える。.....p485
- ⑧ 川で遊ぶ前に.....p486



松河戸文化科学探求隊  
 隊長 長谷川 浩  
 080-3657-7052  
 松河戸町の沿革ホームページ  
<http://matsukawado.com/>

## ① 川下り

## ア 事前準備

春日井市内を流れる 19.3 キロを歩いて下るのは大変です。  
やはりボートが良さそうです。

木曽川を川下りしている友達にカヌーを貸してもらいました。

カヌーにもいろいろあるようで、パドル(こぐ道具)の違いによって、大きく「カナディアンカヌー」と「カヤック」に分けられるそうです。

ボートの形状や、海用と川下り用でも名称が異なるということです。

今回借りたのは、「インフレーターブルカヤック」と呼ばれる川下り用のゴムボートで、パドルは両面に水かきが付いたタイプのものでした。(結局頂くことになりました)

かなり使用されている物で、穴が開いてないか心配だったので、家へ帰って早速空気を入れてみましたが大丈夫の様でした。

## 準備する物

- ・カヌー(リュックに入れて背負えるもの)、
- ・足踏み空気入れ、 ・ライフジャケット、
- ・帽子(ヘルメット)、 ・防水カメラ、
- ・食料(お茶、おにぎり等)、
- ・水着、 ・シャツ ・スニーカー



さて、出発！

勝川駅まで自転車で



古虎溪駅のプラットフォーム

## イ さて出発！ (2020年8月9日)

今年は梅雨明け(8月1日)が遅く、既に8月9日、暑くなりそうな日曜日の朝を迎えました。

7時頃に家を出て、勝川駅から多治見行き普通(330円)に乗りました。

高蔵寺駅を過ぎたあたりから春日井市の東部山地へ入り、両側の山が迫り溪谷が現れます。

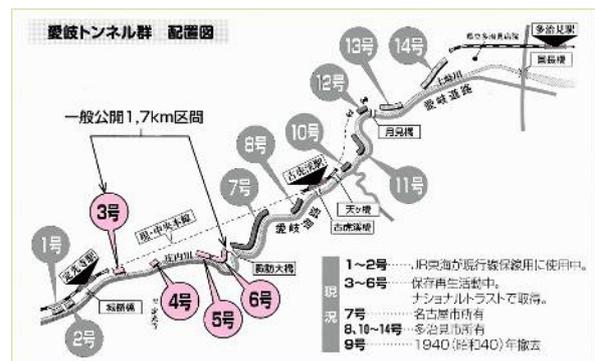
その溪谷にへばりつくように作られた定光寺駅を通り越して古虎溪駅で下車、勝川駅から約20分程でした。



駅前の橋から下流を眺める

今は、定光寺から多治見までは3本の長いトンネルで繋がっていますが、昭和41年の複線電化完成までは、今よりさらに川沿いに14のトンネルがありました。

その、愛岐トンネル群の9号トンネルを完全に撤去した跡にこの古虎溪駅が造られました。



今ボランティアの人たちがこの愛岐トンネル群を整備して観光地化しています。

車内は1両あたり5～6名程乗客がいましたが皆マスクをしています。

今年3月頃から日本にも蔓延しだしたコロナ対策のためです。

20分程して古虎溪駅につきました。

一つ手前の定光寺は無人駅ですが、この駅は改札に私服を着た女の人がいました。

聞いてみると、古虎溪は多治見市が受託し、地元住民が長年に渡って乗車券発売を行っているとのことでした。

駅を出ると、目の前は美しい渓谷で、今回、川下りする庄内川(ここ岐阜県では土岐川と呼ぶ)の水も澄んでいます。

駅前の橋を渡り、県道15号線を渓流に沿って下っていきます。

この道は、愛岐道路と言って、昭和62年(1987)まで有料道路でした。

## ウ 乗り場を探す

河原に出たいのですが、フェンスがあってなかなか降りられません。

けっこうな交通量で、川沿いの道は狭いので車が来る毎に立ち止まり、過ぎ去るのを待ちました。

10分ほど歩くと赤い諏訪大橋が見えてきました。

ここを過ぎると愛知県に入ります。

諏訪大橋は、名古屋市の愛岐処分場の専用の橋で通行止めになっており、この向こうに、旧中央線の深見沢橋梁跡があるので行きたいのですが断念しました。

(河口から42.2 Km)

下を見ると川がU字形に大きくカーブしており、その内側にピクニック河原が見えました。

カヌーを設営するには絶好の場所です。

なんとか下まで降りることに成功しました。

川の水は清らかで、河原は細かい砂でできており、川床材料は20cm程の石で構成されています。

対岸には支流蛇ヶ洞川が注いでおり、周りを見回し、束の間の休憩をとりました。

庄内川は、岐阜県では土岐川、愛知県に入ると玉野川、そして庄内川と名を変えますので、ここは玉野川と呼びます。



県道15号を歩く  
なかなか河原に降りられない。  
諏訪大橋が見えてきた。



諏訪大橋は、愛岐処分場の専用橋



ピクニック河原



ピクニック河原でカヌーの設営

## エ カヌーに乗る

下半身は水着、上半身はポリエステル製のTシャツ(綿より速乾性がよい)にライフジャケットを着た。帽子をかぶり、スニーカーを履いて準備は万全だ。

まずは足踏み式のポンプで空気を入れてボートづくり、これでもかというくらいパンパンに空気を入れた。

そして入水。どうすればいいかわからず、パドルで右へ左へと交互にこぐ。

その度にボートの先は左右に揺れて思う方向に進まないが、川の流れに助けられ、なんとか前進。

水面にちょこんと座り、流れと一体になる感触は気持ちがいいが、浅瀬は川の流れが速くなり少し怖い。

カヌーに乗ると、視線が水面に近くなり川が広く雄大に感じられる。

上を見上げると兩岸の山が屹立し、渓谷の中にいる自分が小さく感じる。

多治見から定光寺までの右岸は、愛岐トンネル群が続いており、ここから定光寺まではボランティアの人たちによってよく整備されています。

右岸の山の中腹に愛岐トンネル群の6号トンネルへ上がる玉野古道の一部が見えました。



いざ出発!



早瀬は注意を!

## オ カヌーで出発

少し練習し慣れたので、いざ出発!

この辺りは、水の流れは穏やかだ。

大きな岩と岩の間は流れが速いので気を付ける必要があるが、後は流れに身を任せて進むだけ。

しかし、流れが穏やかでないところもある。

ジャージャーという音と共に、白く三角立った波が目の前に立ちはだかる。

縦揺れが始まり、ボコンボコンとビニールの船底越しに尻を突く、「一体どうすればいいんだ!?!」とりあえずパドルを見ずに突っ込んで必死にこぎ、ハラハラしながらも乗り切った。

さらに、大きな岩が川の中に目立つようになってきた。

川は岩石の屹立する中を急流となっている。

行く手に大きな岩が立ちはだかっている。

どけようとするのだが、なかなかうまくいかない。ぶつかる!



愛岐トンネル群の看板



玉野堰堤

左岸上流から

しかし岩に近付くとカヌーが自分で避けてくれた。  
 なんだこんなものかと感心し安堵した。  
 でも、もし水に落ちてもライフジャケットを着ていれば大丈夫。慣れると波が荒いのも楽しい。  
 少し進むと、右岸には、愛岐トンネル群の大きな看板がみえてきた。



玉野堰堤 左岸下流から

愛岐トンネル群は、玉野古道とともにボランティアの人たちによって整備されているところで、平成 28 年に「3号トンネル」、「4号トンネル」と「旧中央線笠石洞暗渠」の3つが、春日井市で初めて国の登録有形文化財になりました。

特に秋のモミジは素晴らしく、春の桜の時季とともに大勢の人たちが見物に来るようになりました。

気が付くとなんだか川の様子が変わってきた。川幅が広くなり、流れも緩やかになり、水深も深くなってきた。

玉野堰堤だ!

## カ 一旦降りる

この堰堤を乗り越えることは命に関わると思い、出発してからたった 15 分程だったが、岸に寄せて船から降りることとしました。

一度船に乗ると降りるのが億劫だが、このような堰があとどれくらいあるだろうか?

玉野堰堤で取水された水は、玉野用水を経て、玉野水力発電へ送られ、今も玉野周辺の電力供給と田畑を潤しています。

県道 15 号を 10 分ほど歩くと城嶺橋が見えてきました。

城嶺橋は、昭和 12 年(1937)に京都四条大橋を模して造られ、親柱の揮毫「城嶺橋」は徳川家十九代義親氏によるものです。

大正期の水平線、垂直線を強調する「セセッション」風デザインとのことで、なんとも趣があります。

この辺りから鹿乗橋付近までは、名古屋の奥座敷ともいわれる景勝地で、愛知高原国定公園にも指定されており、かつて多くの旅館がありました。

今は、應夢亭(おうむてい)1件が料亭旅館として営業しているだけです。

女将さんに聞くと、祖父が定光寺駅を造るときに孤軍奮闘したそうで、少しでもお客を増やそうと大正 6 年に先代の女将さんが創業し、それからまもなくして駅ができたとのことです。

昭和初期には 7 件の料理屋があり 15 人から 30 人程の芸者がいて、利用者は主として瀬戸の陶器商人



城嶺橋と奥が廃墟の千歳楼

城嶺橋の上から、左が應夢亭  
奥へ行くと定光寺

崖にへばり付くように建てられた定光寺駅

達とのことでした。

戦争中は陸軍の保養所となり、戦後は米軍の専用娯楽場となりました。

定光寺の駅は川沿いの崖にへばり付くように建てられており、秘境の趣ある駅です。

地元の人たちが観光地として駅誘致に力を入れ、大正8年に定光寺仮停車場として旅客営業を開始し、大正13年(1924)に勝川駅、高蔵寺駅に次いで春日井市3番目の駅となりました。

應夢亭でコーヒーを頂き、元気が出てきた所で再度出発することとしました。

## キ 再度出発!

県道15号と別れて、城嶺橋を渡り県道205号を行くこととします。

逆に行くと紅葉の綺麗な定光寺に行きます。

南北朝時代(1336)創建の臨済宗妙心寺派の定光寺には、尾張藩の初代藩主徳川義直の墓があります。

城嶺橋の上から庄内川の上流を眺めると、川床に砂岩と頁岩の互層による規則正しい配列が自然の景観美として観察できます。

白っぽい岩石は砂岩で、黒っぽい岩石は頁岩でそのコントラストが美しく、橋の下流はチャートと頁岩の互層になっており上流とは岩質を異にしています。

川は岩石の屹立する中を急流となって流れています。また瀬と淵も多く存在しており、よく見ると淵のあたりには多くの魚が見えます。

春日井の東部山地にあたるこの地域は、奥から弥勒山、大谷山、道樹山と400m級の峰々が連なっており、内津峠から定光寺までの尾根すじは、東海自然歩道の春日井コースとしてよく整備され、多くの人々に利用されています。

このあたりは鞍部にあたり、太古の昔は海の中で、その地層が力を受け盛り上がり東部山地が出来上がり、その古生層の岩盤を侵食して、この美しい玉野溪谷が出来上がったとのことでした。

春日井自然友の会

橋を渡り右に行くと定光寺の駅で、左に折れると廃墟となった千歳楼があります。

千歳楼は1954年に創業し1994年頃ピークを迎えましたが、自家用車の普及などによって徐々に信州・飛騨といった場所に名古屋からの観光客を奪われるようになりました。

名古屋の奥座敷といわれた観光地でしたが観光客が少なくなり破産しました。

建物の根抵当権が大手都市銀行から債権回収会社に移り、管財人との連絡も取れなく



県道205号はこの城嶺橋を渡り左へ廃墟となった千歳楼が見える



城嶺橋の上から上流を見る



城嶺橋の上から下流を見る



慰霊碑



東海自然歩道の看板

なったため、取り壊しを行うことも難しくなって廃墟となっているとのことでした。

少し行くと右側に東海自然歩道の看板が見えました。

その下に愛岐トンネル工事で亡くなられた 20 余名のかたの慰霊碑があります。

明治 29 年 11 月着工、明治 33 年 7 月開通、わずか 10 キロの間に 14 のトンネルを掘る難工事であったそうです。

ここを上がっていくと、上には、玉野園地がありますが、その手前に定光寺ロックガーデンといって、クライミング愛好家の絶好な練習場となっています。

## ク 地層・岩石

ロックガーデンは 2 つの大岩体が平行に並んでおり、北側の岩体は幅 35、高さ 10m、岩質は灰色層状のチャートで、南側の岩体は高さが 20m で母岩のチャートが熱変成を受けて軟珪石に変化して脆くなっているそうです。

この辺は太古の昔、海の中で、地殻の変動によって海の底が隆起し、このような岩盤が現れ、その古生層の岩盤を川が侵食して美しい地形をつくっています。

下流の河原には、ここの堆積岩が侵食された礫が見られますし、中には温度や圧力などの影響を受けた変成岩と呼べる珍石もみられます。

## ケ 再度乗り場を探す

県道 205 号を川に沿って下っていくが、車はあまり通らない道です。

左側には玉野用水が発電所まで流れており、そのフェンスがあるので河原に降りられる場所がみつからなかったが、なんとか河原に降りることが出来ました。

カヌーを組み立てて一服すると、今まで気が付かなかったが「うぐい」がいっぱいいます。

水はきれいです。

庄内川の城嶺橋から玉野橋までの間は、大きな岩盤を川が侵食したところで、岩の大きな窪みにたまった水に入ると、暖かくて、まさに温泉に浸かっているような気分です。

30 分ほど休憩し、出発することとしました。



北側の岩体 ロックガーデン



再度カヌーに乗船した場所  
城嶺橋の下流 100m



群泳するウグイ



右が玉野水力発電所、奥が玉野橋

## コ 再度カヌーで出発！

右手には玉野水力発電所があり玉野橋が見えてきました。

この辺りは流れが穏やかで神秘的な所です。

岩石の中を急流となって流れているのとは一変して、川が淵となっており水の流れも緩やかで密林の湖の様相を呈しています。

この神秘的な湖にずっと居たい気持ちでしたが、この場を一周して進むこととしました。



水遊びをする人

玉野橋を過ぎると川は右に大きく曲がっており、その内側の岩場で、バーベキューや水遊びをしているグループがいました。

川のカーブの内側の河原や川床は直径 20 cm程の石で構成されており、自然の美しい川の姿を見せています。

この右岸の上は、水田地帯になっており、高蔵寺第5号墳があるので、カヌーを係留して行ってみることにしました。



バーベキューをする人

河原から上がると、見渡す限りに広がる田園風景です。

なんとも美しく整然とした水田が広がっており、青々とした出穂前の苗を玉野用水から引かれた水が田を潤していました。

どこかで見たことがあるような「日本の原風景」がそこにありました。

その中にポツンと古墳らしきものがありました。注意しないと見落としてしまいそうな小さな古墳です。



なんとも美しい水田  
玉野用水路の水が水田を潤している。



水田の中にある高蔵寺第5号墳

## サ 玉野川溪谷を過ぎ松河戸へ

再度カヌーに乗り込み進むと、川の中の岩が少なくなり、川床は小石の様だ。

川は大きく右に曲がり、ゆったりとした流れになってきた。

うぐい川、水野川が合流する地点で、砂浜も所々にある。

しかし、油断は大敵だ。



鹿乗橋手前の急流。カヌーが転覆した所

川が左に曲がり始め鹿乗橋が見えてきたと思ったら川幅が狭くなり川の流が急になってきた。あっという間に鹿乗橋の手前でカヌーが転覆し放り出されてしまった。何が起こったか分からず水中に沈むことになったが、なんとか岸までたどり着くことができた。やはりヘルメットとライフジャケットは命を守る必需品だ。鹿乗橋の手前は、堤から堤の幅は広いのですが、傾斜があり川幅が狭く流れが早いので、カヌーをすすめるにはおもしろいが注意が必要です。

鹿乗橋の高蔵寺側正面崖下に、岩をくり抜いて馬頭観世音菩薩が祀られています。

これは明治43年、橋の架設のときに、近くの馬車曳業の人々によって建立されました。

鹿乗橋を過ぎると、淵になっており水深が深く流れも緩やかで川の色も淵的神秘です。

愛環鉄道、サイフォン橋を過ぎると川幅も広くなり、まず右側が開けます。

この辺りで、東部山地を抜け玉野川溪谷も終わりです。

今までは、岩石の屹立する中を急流となって下ってきましたが、一転川幅も広がり濃尾平野の中をゆったり流れる川となります。

右岸は高蔵寺です。東谷山を過ぎると左岸も開け上志段味になります。

東谷山は、名古屋市守山区と瀬戸市にまたがる名古屋市最高峰の山です。

といっても標高198m程で、30分もあれば山頂に到達できるお手軽な低山です。

山のふもとには志段味古墳群が広がっています。

東谷橋を過ぎると、後は、川の流に身を任せて、松河戸グラウンドまでの旅でした。

その間のエピソードや感じたことについて、まとめて記載します。



愛環鉄道、奥に愛知用水サイホン橋（鹿乗淵辺り）

## ② 河原の礫について

高蔵寺あたりから下流は、川幅が広くなり、所々に大きな河原が形成されており、河原では上流から運ばれてきた堆積岩が多くみられますが、火成岩や変成岩など幾種類もの礫が見られます。

色とりどりのチャートや頁岩、花崗岩、ホルンフェルスなどが転がっており、たまに珪化木やメノウなどの珍石も観察できるとのことです。

岐阜県東濃地方から愛知県にかけて広く分布している第3紀層の瀬戸層群と呼ばれる砂礫層中に含まれている礫が、そのまま庄内川へ流れて来ます。

庄内川の礫の大半がこの礫で、礫種は放散虫が含まれた堆積岩のチャートが主で、古生層中のものに比べ、赤・緑・茶など色鮮やかなのが特徴です。

この地層からは陶土やケイ砂が採掘され瀬戸焼の材料にもなっています。

放散虫は原生動物に属し、ケイ質の殻あるいは骨格をもった浮遊性の海棲プランクトンで、放射状の

とげがあり、さまざまな形態をしています。現在も熱帯の海を中心にほとんどすべての海に生息しています。

出現は先カンブリア時代の末期(約7億年前)とされており、以後さまざまに分化し、現在に至っています。

放散虫は、殻がケイ質のため、化石として保存されやすく、道樹山・高森山などを含む春日井市東部地域に見られる古生層も、主にこのチャートからできています。

他には幾種類かの火成岩(花崗斑岩・石英斑岩、流紋岩・石英安山岩・安山岩など)、希に碧玉(ジャスパー)・メノウ・珪化木などを見ることができます。

また、古虎溪、定光寺付近では古生層という硬い岩盤をつくっており、それらが砕かれ礫になって流れてきます。

砂岩、頁岩、チャートなどの堆積岩、これらが熱や圧力などによって変質した変成岩も見ることが出来ます。

岐阜県の飛騨地方や東農地方にかけて分布している花崗岩などの火成岩類も流れてきます。



たまに、土岐石と呼ばれる江戸時代から珍重された石も流れて来ることがあるそうです。

河原ではこれらの上流から運ばれてきた幾種類もの礫を観測でき、庄内川流域の地層・岩石を学習する格好の場所となっています。

郷土史かすがい 第52号 庄内川の礫

庄内川の河原にころがっているレキを調べると、その半数以上がチャートである。  
また、道樹山・高森山などを含む春日井市東部地域に見られる古生層も主にこのチャートからできている。(ただし、かなり変成作用を受けている。)  
このチャートは、たいへん硬く、緻密(ちみつ)な作りをしている堆積岩である。  
成分は、ほとんどが二酸化ケイ素である。  
また、色は赤茶色または白っぽいものが多い。



鹿乗橋手前の河原



新東谷橋手前の河原



松河戸の河原



濃飛流紋岩



ホルンフェルス  
(接触変成岩)



頁岩

堆積岩		砂岩、頁岩、チャートなど
火成岩	火山岩	流紋岩、安山岩、玄武岩など
	深成岩	花崗岩、斑レイ岩など
変成岩		片麻岩、片岩、角閃岩など

珪化木… 樹木が原型を変えずに二酸化ケイ素(シリカ)という物質に変化

メノウ… 火成岩や堆積岩の空洞中に層状に沈殿した鉱物の変種である。

碧玉… 微細な石英の結晶が集まってできた鉱物で、宝石の一種。

### ③ 堰堤について

今回の川下りの行程のなかで4つの堰堤がありました。

(①玉野堰堤、②大留辺りの堰堤、③上条用水取水堰、④中切の堰堤)。

堰堤は、庄内川の水運利用には障害になりますし、庄内川の水量不足から、水運があまり発達しなかったのも理解できました。

また、水を取水するためには、堰を設ける必要がありますが、堰は川の流れを妨害し大雨の時は危険になります。先人の苦勞がよくわかりました。



上条用水取水堰 下流から



中切の堰堤 左岸から

### ④ 川の水質について

水質については、きれいになったと感じました。

しかし、国土交通省調査によると 全国の一級河川では下位であるとのこと。

25年くらい前までは常時陶土が流入して水が真っ白でしたが、今は水も澄んでいます。

玉野川溪谷の辺りでは、のどが渴けば川の水も抵抗なく飲めるような気がするのですが、さすがに松川橋あたりでは綺麗になったといっても飲めません。

ご高齢の方に聞くと、だれも戦前の庄内川はきれいで美しい川だったと言います。

庄内川の水質は、昭和30年代から40年代にかけて、陶磁器原料、

稲葉生産、製紙工場等の排水や、生活雑排水の流入により悪化しました。庄内川河川事務所  
松河戸から上流は、白濁水となっており、下流はパルプ排水独特の硫黄化合物で何とも言えない異様な色をしていました。

庄内川のBOD 平均値 (mg/l) 平成26年度調査		
調査地点	平均値	類型
多治見橋	1.0	B
城嶺橋	1.1	B
大留橋	1.3	D
水分橋	3.0	D

その後、昭和45年に制定された水質汚濁防止法の排水規制や下水道整備により改善されてきたこともあり、現在では河川敷でのスポーツ、散策など市民の憩いの場所になりつつあります。

庄内川をきれいにする会など、多くのボランティアグループが活動されています。

今回の川下りで、地域の方だと思いましたが、川辺を掃除しているグループを見かけました。

## ⑤ 川でみかけた生物について

玉野川溪谷の辺りでは、岩場の浅瀬で「ウグイ」が集団で泳いでいました。

また、よく見るとメダカ(?)の様な小さな魚も多くいました。

空を見上げると、何種類かの「サギ」や「カモ」「トビ」なども飛んでいました。

大留の辺りでは、「カワウ」の大群が水遊びをしていました。

中切の堰堤では、カヌーの中に「オイカワ」という魚が飛び込んできたので、家へ持ち帰りました。

大留橋(今は撤去されている)あたりで、アヒルを2羽で泳いでいるのを見かけました。

近づいても逃げないので、誰かが飼っていたものと思われる。



群泳するウグイ

## 今回の川下りでみかけた動物



イカルチドリ  
鹿乗橋辺りで見かけました。



トビ  
玉野川溪谷で何羽もみかけました。



カルカモ  
大留辺りに沢山いました



カワウの群れ  
中切の堰堤から上条用水取水堤辺りに集団で居ました。



サギ  
上条用水取水堤辺りで数羽みかけました



オイカワ(はえ)

中切堰堤防の辺りでポートの中に飛び込んできました。11 cm程ありました。

## その他

メダカ  
蟹(かに)  
アヒルなど

## その他

メダカ  
蟹(かに)  
アヒルなど

## ⑥ 河原の利用について

庄内川は大きな蛇行を繰り返しながら流れており、カーブの内側などは河原となっています。

愛知環状鉄道の辺りまでは、溪谷のなかにあるため、所々にある小さな河原で釣りや水遊びなどを楽している家族連れやグループがみられました。

東谷橋辺りからは、川幅も広がり大きな河原があり、河川敷では運動場などが造られて市民の憩いの場となっています。

新東谷橋の下は高蔵寺運動広場、吉根橋の手前は熊野グラウンド、上条町の対岸の吉根町には、野球グラウンドや運動場、バギーコース、ドローンスクール場など大規模な運動施設となっています。

下津町では大規模な河原畑として利用されており、松河戸では松河戸グラウンド、勝川橋の下左岸では野球場や、ゴルフ練習場として利用されています。

しかし、多くは草が生茂り、河原にたどり着けないようなところが多くあります。

このとてつもない大きな空間を、もっと有効利用しなくてはもったいないと思います。

松河戸の河川敷は、野球場、運動場として利用されていますが、せっかくの川ですので、散策路を整備し、釣り、水遊びができる住民の憩いの場となるよう、皆が庄内川に関心をもち、水質を更にきれいにする必要があります。

## ⑦ 約20キロのリバーツーリングを終える

松川橋を過ぎると、今回の川下りの終点となる。

河原に乗り上げカヌーから降りると足がもたつく。

空気を抜きリュックにしまう。

缶ビールを取り出し飲む。

生ぬるいビールだったが最高の味だった。



松河戸の河原

川下りを終え、今、下ってきた上流を望む。

上流に見えるのは今くぐってきた松川橋

松河戸文化科学探求隊

隊長 長谷川 浩

080-3657-7052

松河戸町の沿革ホームページ

<http://matsukawado.com/>

## ⑧ 川で遊ぶ前に

川は普段は穏やかでとても楽しいところですが、時には恐ろしい姿に変わります。

増水時の川原は大変危険です。くれぐれも近寄らないでください。

でも、気をつけて遊べば大丈夫！

天気や川の流れに十分注意して、楽しく遊びましょう。

### ○ 川遊びのルール

- ・自然が相手。自分の身は自分で守りましょう。
- ・仲間と出かけ、お互いに注意して遊びましょう。
- ・遊ぶ前には下見をし、遊んでいるときも天気や流れに気をつけましょう。
- ・ライフジャケットをきちんと着けましょう。
- ・自然を感じ、思いっきり楽しみましょう。



#### 水に入るときの服装

- ・ライフジャケットを着けよう
- ・濡れても良い、乾きやすい(ナイロン製など)服装にしよう
- ・ウォーターシューズ、リバーシューズなど濡れても良く脱げない靴をはこう。(ビーチサンダルは脱げて危険！)

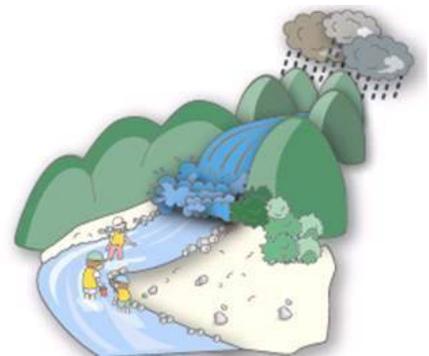


#### 河原や水辺で遊ぶときの服装

- ・帽子をかぶろう
- ・軍手をしよう
- ・動きやすい服装にしよう
- ・濡れてもいい歩きやすい靴をはこう

### ○ 川に行ったら・・・

- ・川の近くにある看板には遊ぶ際の注意が書いてあります。きちんと読んで遊びましょう。
- ・こんな時にはすぐ避難！（川の水が急に増えるサインです）
  - ・水が流れてくる方の空に黒い雲が見えたとき
  - ・落ち葉や流木、ゴミが流れてきたとき
  - ・雨が降り始めたとき
  - ・雷が聞こえたとき
- ・雨が降っても橋の下では絶対に雨宿りはしないでください！



国土交通省のホームページから